

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年3月29日
【事業年度】	第23期（自平成24年1月1日至平成24年12月31日）
【会社名】	株式会社ネットワークバリューコンポネンツ
【英訳名】	Network Value Components Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役 渡部 進
【本店の所在の場所】	神奈川県横須賀市小川町14番地 - 1
【電話番号】	046(828)1800（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役アドミニストレーション部 ディレクター 寺田 賢太郎
【最寄りの連絡場所】	神奈川県横須賀市小川町14番地 - 1 ニッセイ横須賀センタービル
【電話番号】	046(828)1804
【事務連絡者氏名】	取締役アドミニストレーション部 ディレクター 寺田 賢太郎
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第19期 平成20年12月	第20期 平成21年12月	第21期 平成22年12月	第22期 平成23年12月	第23期 平成24年12月
売上高 (千円)	2,528,972	2,307,209	2,927,795	2,470,160	2,664,521
経常利益又は 経常損失 () (千円)	30,533	270,581	43,398	108,047	123,504
当期純利益又は 当期純損失 () (千円)	9,852	374,383	539,032	18,504	109,959
包括利益 (千円)	-	-	-	30,294	146,492
純資産額 (千円)	1,015,336	641,168	109,505	139,799	285,991
総資産額 (千円)	2,437,324	1,895,967	1,835,422	1,288,698	1,468,576
1株当たり純資産額 (円)	107,796.53	68,173.18	10,279.28	13,355.18	30,305.37
1株当たり当期純利益金額 又は当期純損失金額 () (円)	1,039.24	39,806.89	57,186.10	1,960.88	11,651.94
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	41.6	33.8	5.3	9.8	19.5
自己資本利益率 (%)	1.0	45.2	146.0	16.6	53.4
株価収益率 (倍)	-	-	-	36.72	8.41
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	245,424	192,426	306,513	422,058	367,389
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	467,245	131,199	389,342	226,536	113,293
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	784,960	122,987	182,484	244,253	96,697
現金及び現金同等物の期末 残高 (千円)	97,702	36,207	135,356	87,011	247,406
従業員数 (人)	91	88	85	82	85
(ほか、平均臨時雇用者数)	(11)	(14)	(11)	(9)	(11)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第19期から第21期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため、記載しておりません。

第22期及び第23期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3. 第19期から第21期の株価収益率については、当期純損失であるため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第19期 平成20年12月	第20期 平成21年12月	第21期 平成22年12月	第22期 平成23年12月	第23期 平成24年12月
売上高 (千円)	2,502,223	2,119,420	2,315,901	1,953,378	2,157,454
経常利益 又は経常損失 () (千円)	50,050	143,698	22,399	137,168	165,359
当期純利益 又は当期純損失 () (千円)	1,289	260,771	603,043	50,933	86,481
資本金 (千円)	366,759	366,759	369,981	369,981	369,981
発行済株式総数 (株)	9,489	9,489	9,521	9,521	9,521
純資産額 (千円)	1,020,874	764,107	156,494	207,475	343,933
総資産額 (千円)	2,438,947	2,004,689	1,608,961	1,229,601	1,374,346
1株当たり純資産額 (円)	108,545.95	81,244.82	16,583.04	21,985.33	36,445.22
1株当たり配当額(うち1 株当たり中間配当額) (円)	800.00 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
1株当たり当期純利益金額 又は当期純損失金額 () (円)	135.98	27,726.94	63,977.08	5,397.18	9,164.13
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	41.9	38.1	9.7	16.9	25.0
自己資本利益率 (%)	0.1	29.2	131.0	28.0	31.4
株価収益率 (倍)	389.77	-	-	13.34	10.69
配当性向 (%)	588.3	-	-	-	-
従業員数 (人)	91	84	69	68	71
(ほか、平均臨時雇用者数)	(11)	(14)	(10)	(8)	(10)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第19期、第22期及び第23期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3. 第20期及び第21期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため、記載しておりません。

4. 第20期及び第21期の株価収益率については、当期純損失であるため記載しておりません。

5. 第20期以降の配当性向については、配当を行っていないため記載しておりません。

2【沿革】

年月	事項
平成2年4月	神奈川県横須賀市大津町において会社設立 下記2社の代理店として活動開始 トークンリング/AS400関連製品のメーカーの加Mux Lab社と代理店契約 配線用部材の専門メーカーの米Nevada Western社と代理店契約
平成2年9月	トークンリング関連の配線部材メーカーの加MBA社と代理店契約 本社事業所を横須賀市三春町に開設
平成2年12月	トークンリング関連製品でイスラエルNorth Hills社と代理店契約
平成3年4月	LAN用ケーブル測定器メーカーの米Microtest社と代理店契約
平成3年9月	大型PCネットワーク用本格OSメーカーの米Banyan社と代理店契約
平成4年6月	LAN用ケーブル有力メーカーの米Montrose社と代理店契約
平成5年4月	カテゴリ5用部材のリーダーである米Siemon社と代理店契約
平成6年10月	ATM、トークンリング関連製品メーカーのデンマークOlicom社と代理店契約
平成7年3月	100%子会社の㈱エヌブイシーカスタマーサービスを設立
平成8年12月	米Alteon WebSystems社と代理店契約
平成9年11月	本社を現在の横須賀市小川町に移転
平成11年3月	Webプラットフォームメーカーの米Inktomi社と代理店契約
平成11年10月	チップ事業及びマイクロソフトOEM製品の販売を主とするアスキー・ブイ・エム㈱を買収、100%子会社化。社名をエー・ブイ・エム㈱へ変更
平成11年12月	東京都港区に東京オフィスを開設
平成12年2月	㈱エヌブイシーカスタマーサービスを㈱ネットソースへ社名変更し、ネットワークに特化したアウトソーシング事業を開始
平成12年7月	メディアコンバータメーカーのイスラエルFibroLAN社と代理店契約 コンテンツ配信技術開発の米Adero社と提携
平成12年8月	ケーブルトロン・システムズ㈱とPlatinum Plusパートナー契約を締結
平成13年1月	子会社のエー・ブイ・エム㈱を売却
平成13年2月	大規模ネットワーク向けFirewall製品メーカーの米NetScreen社と代理店契約
平成14年5月	SSLアクセラレーション+ロードバランサーやSSL-VPNアプライアンスメーカーの米Array Networks社と代理店契約
平成14年10月	メトロポリタンエリアネットワーク向けパケットリングプロダクトメーカーの米Lantern Communications社と代理店契約
平成15年1月	100%子会社の㈱ネットソースを吸収合併
平成15年3月	統合型アンチウイルス・コンテンツフィルタリングセキュリティアプライアンスメーカーの米Fotinet社と代理店契約
平成15年4月	P2Pトラフィックマネジメント製品メーカーの米Ellicoya Networks社と代理店契約
平成15年7月	コストパフォーマンスに優れたブロードバンドネットワークプロダクトのサプライヤーである韓国DASAN Networks社と代理店契約
平成15年12月	無線LANスイッチングシステム関連製品メーカーの米Aruba Wireless Networks社と代理店契約
平成16年6月	スパム/ウイルス対策でかつ高速メール配信を行なうメッセージングゲートウェイアプライアンスのトップメーカーである米Cisco Ironport Systems社と代理店契約
平成16年7月	メッシュ型ワイヤレス製品の米Strix Systems社と代理店契約
平成16年8月	ログ解析ソフトウェアなどのトップメーカーである米NetIQ社とソリューションパートナーアライアンスを締結
平成16年12月	認証やアカウントングアプライアンスサーバのメーカーである米Infoblox社と代理店契約
平成17年5月	総合ネットワークングプロダクトメーカーである中国H3C Technologies社と代理店契約
平成17年12月	東京証券取引所マザーズに株式を上場

年月	事項
平成18年1月	マネージドVPNサービスを提供開始
平成18年2月	ログマネジメントアプライアンスメーカーの米Loglogic社と代理店契約 クラスタストレージ製品メーカーの米Isilon Systems社と代理店契約 ネットワークセキュリティ製品メーカーの台湾BroadWeb社と代理店契約 セキュリティサービススイッチ製品メーカーの米Crossbeam Systems社と代理店契約
平成18年3月	セキュリティインフォメーションマネジャー製品メーカーの米Secure Associates社と代理店契約
平成18年6月	データベース/Web アプリケーションに特化したセキュリティゲートウェイ製品メーカーの米Imperva社と代理店契約
平成18年9月	ネットワークソリューションプロバイダのセンチュリー・システムズ(株)と代理店契約
平成18年11月	(株)ジャパン・モバイル・プラットフォームの株式を取得し、子会社化
平成19年9月	(株)シマンテックと代理店契約
平成20年6月	I/O 仮想化コントローラソリューションベンダの米Xsigo Systems社と代理店契約
平成20年8月	子会社の(株)セーブルネットワークス(現(株)n2テクノロジ)を設立
平成20年9月	子会社の(株)セーブルネットワークスジャパン(現(株)セーブルネットワークス)を設立
平成20年12月	株式の一部譲渡により(株)セーブルネットワークス(現(株)n2テクノロジ)を非子会社化
平成21年1月	(株)セーブルネットワークスジャパンを(株)セーブルネットワークスへ社名変更
平成21年2月	子会社の(株)ジャパン・モバイル・プラットフォームを売却 子会社の(株)セーブルネットワークスを100%子会社化
平成21年3月	クラウドネットワークング・ソリューションベンダの米Arista Networks社と代理店契約
平成21年8月	ネットワーク・フォレンジックソリューションベンダの米Solera Networks社と代理店契約
平成21年9月	ネットワークTAPの草分け的存在である米Datacom Systems社と代理店契約
平成21年12月	テレビ会議システムベンダの米Vidyo社と代理店契約
平成22年1月	子会社の(株)イノコスを設立し、ブロードアース(株)からDTV事業を譲受
平成22年2月	(株)パックスの株式を取得し、100%子会社化
平成22年9月	ネットワーク機器/サーバ向け監視サービス「Nabbix 監視サービス」を提供開始 ネットワークおよびセキュリティ製品ソリューションベンダの香Cell Technology社と代理店契約
平成23年2月	オブジェクト・ストレージ・ソフトウェアを提供する仏Scality社と国内総代理店契約
平成23年6月	WAN高速化テクノロジーを提供する(株)クリアリンクテクノロジーと代理店契約
平成23年11月	東京オフィスを東京都港区から東京都大田区に移転
平成23年12月	マルウェア対策システムとネットワーク脅威防止ソリューションを提供する米FireEye社製品の販売を開始
平成24年2月	トラフィック・キャプチャ・システムを提供する米VSSモニタリング社と代理店契約
平成24年7月	コンピューターフォレンジック関係ソフトウェアを提供する米ガイダンスソフトウェア社と代理店契約
平成24年11月	NVCテレビ会議クラウドサービスを提供開始 子会社の(株)セーブルネットワークスを解散

3【事業の内容】

当社グループは、当社及び連結子会社3社から構成されております。連結子会社は、(株)イノコス、(株)パックス、(株)セーブルネットワークスの3社です。当社グループは、ネットワーク関連商品の輸入、開発、販売、サポートとサービス及びネットワークインテグレーションを主な事業としており、主要取扱分野及び製品は次の通りであります。

なお、(株)セーブルネットワークスは、平成24年11月8日に解散し、平成25年3月4日に清算終了いたしました。

事業部門	製品分野	主要取扱製品
ネットワークソリューション事業	インフラ・ネットワーク製品	スイッチ、ルータ、無線LAN、ケーブルリング、IP放送システム、デジタル放送機器
	セキュリティ製品	ファイアウォール/VPN、ウイルス・スパム対策、ログ監視・分析
	認証・アプリケーション製品	帯域制御、認証系、仮想化、各種受託開発製品
ネットワークサービス事業	コンサルティングと提案、設置・構築、技術サポート、保守	設置、構築、サポート、保守、独自サービス（遠隔監視、管理分析、コンテンツ配信等）、業務受託等

(1) ネットワークソリューション事業

当社グループは、特定メーカーに依存しないマルチベンダ対応を基本方針とし、顧客のニーズに合わせて各ネットワーク関連商品を構成し、通信事業者や一般企業向けにネットワークソリューション事業として提供しております。現在の当社グループのネットワークソリューション事業における製品分野は、インフラ・ネットワーク、セキュリティ、認証・アプリケーションに分類しております。

インフラ・ネットワーク製品分野は、主としてネットワークシステムの根幹をなすスイッチ、ルータやユビキタス環境において不可欠なインフラである無線LAN等の商品群の他、子会社の(株)イノコスが提供する各種IP放送システムやデジタル放送機器により構成されています。

セキュリティ製品分野は、主としてファイアウォール/VPN、ウイルス・スパム対策、ログ監視・ログ分析に関連した商品群により構成されています。

認証・アプリケーション製品分野は、帯域制御、認証系仮想化商品やストレージ装置等の商品群により構成されています。その他、新規分野である映像配信分野において特定顧客向けの受託開発製品を扱っています。

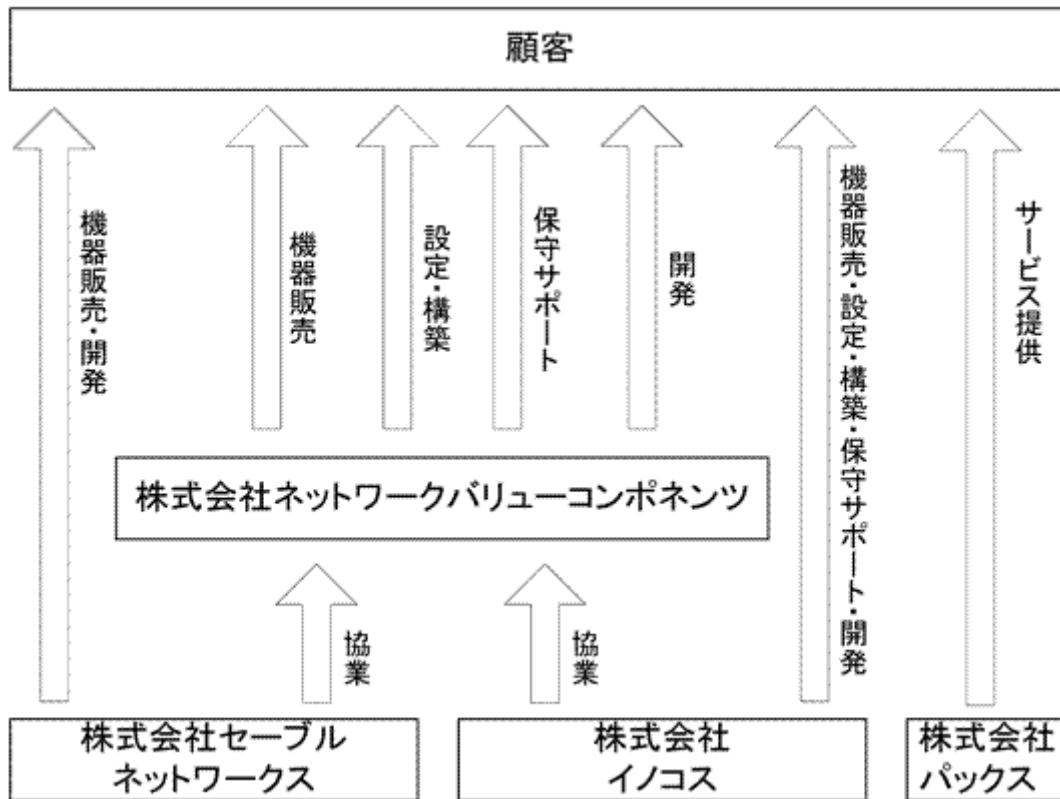
(2) ネットワークサービス事業

当社グループは、最適なネットワークを顧客にご利用いただくためのコンサルティング、提案商品の設置、提案システムの構築サービス、導入を行ったネットワークの安定稼働をサポートする技術サポート及びハードウェア保守などをネットワークサービス事業として提供しており、24時間365日の受付体制及び迅速な対応が可能な体制を整備しております。また、当社独自のサービスである顧客のネットワーク回線状況を遠隔地から監視するマネージドVPNサービスや顧客先に常駐して運用・監視する業務受託サービスの他、子会社の(株)パックスが提供する店舗向けBGM配信サービスがあります。

(注)「製品」は当社グループが提供する商品とサービスの総称として定義しています。また商品にはソフトウェアライセンスも含まれます。

[事業系統図]

当社グループの事業系統図は次の通りであります。



(注) 連結子会社である(株)セーブルネットワークスは、平成24年11月8日に解散し、平成25年3月4日に清算手続きを結了いたしました。

4【関係会社の状況】

(1) 連結子会社

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業の内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) ㈱セーブルネットワーク ス(注)1	東京都大田区	10,000	通信機器事業	100	資金援助あり。
㈱イノコス(注)2	東京都品川区	33,750	IP放送システム開発 ・販売	80	役員の兼任2名 資金援助あり。
㈱ボックス(注)3	東京都大田区	1,000	IPを利用したBGM 及 び映像配信サービスの 提供	100	役員の兼任3名 資金援助あり。

(注)1. 平成24年11月8日に解散し、平成25年3月4日に東京地方裁判所より特別清算終結決定を受けております。

2. ㈱イノコスについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等 (1)売上高 499,076千円
(2)経常損失 3,480千円
(3)当期純損失 40,555千円
(4)純資産額 26,776千円
(5)総資産額 413,083千円

3. 債務超過会社で債務超過の額は、平成24年12月末時点で164,097千円となっております。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成24年12月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
全社共通	85 (11)
合計	85 (11)

(注)従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含む。)は年間の平均人員を()外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成24年12月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
71 (10)	35.2	5.0	5,169,904

(注)1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含む。)は年間の平均人員を()外数で記載しております。

2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておられません。労使関係は円満に推移しております。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国の経済情勢は、緩やかに持ち直しつつあるものの、欧州の金融不安などにより、先行き不透明な状況で推移しました。

ネットワーク市場におきましては、標的型攻撃、DDoS攻撃等の新たな脅威やスマートフォンやタブレット端末の普及やクラウドサービスの進展によるIPトラフィック等の増加等、ネットワーク上での様々な課題に対する取り組みが着実に進展しております。

このような状況の中、当社グループは、前連結会計年度に取り扱いを開始したスカリティ社のクラウドストレージ製品やFireEye社のマルウェア対策システム製品などの立ち上げや新規事業である映像配信分野の展開に積極的に取り組みました。また、VSSモニタリング社の高機能トラフィック・キャプチャ・システム用機器やガイダンスソフトウェア社のコンピューターフォレンジック関係ソフトウェアの取り扱いを新たに開始し、商品ラインナップの充実化を図ると共に、Vidyo社のテレビ会議システムをベースとした「NVCテレビ会議クラウドサービス」の提供を開始し、自社サービス製品の拡充を行いました。

ネットワークソリューション事業は、新規商品の引き合いが順調に増加し、また、セキュリティ関連商品を中心に大型案件の出荷が進み、ネットワークサービス事業についても堅調に推移したことから、売上高は前年同期を上回りました。

利益面につきましては、売上原価の増加により売上総利益が減少し、販売費及び一般管理費は僅かに減少したものの、営業利益は前年同期を下回りました。一方、経常利益は、固定資産賃貸収入の増加や支払利息の減少により、前年同期を上回りました。また、当期純利益については、投資有価証券評価損等の特別損失を計上したものの、投資有価証券売却益等の特別利益や繰延税金資産の計上により、前年同期を大きく上回りました。

この結果、当連結会計年度における売上高は2,664,521千円（前年同期比7.9%増）、営業利益は123,590千円（前年同期比3.9%減）、経常利益は123,504千円（前年同期比14.3%増）、当期純利益は109,959千円（前年同期比494.2%増）となりました。

事業部門別の業績を示すと、次のとおりであります。

（ネットワークソリューション事業）

ネットワークソリューション事業の売上高は、1,698,450千円（前年同期比13.2%増）となりました。新規商品のFireEye社、VSSモニタリング社、Vidyo社の各商品が立ち上がりつつあり、また、既存商品であるFortinet社等のセキュリティ関連商品や無線LANのAruba社商品が堅調に推移した結果、前年同期を上回りました。

（ネットワークサービス事業）

ネットワークサービス事業の売上高は、966,071千円（前期比0.3%減）となりました。ネットワーク構築等のサービス及び当社独自のサービス商品であるマネージドVPNサービスは堅調でしたが、保守が低調に推移したため、前年同期をわずかに下回りました。

事業部門別	平成23年12月期		平成24年12月期	
	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)
ネットワークソリューション事業	1,501,045	60.8	1,698,450	63.7
ネットワークサービス事業	969,114	39.2	966,071	36.3
合計	2,470,160	100.0	2,664,521	100.0

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は、前連結会計年度末に比べて160,394千円増加し、247,406千円となりました。

営業活動によって得られた資金は、前連結会計年度に比べて54,668千円少ない1367,389千円となりました。

投資活動に使用された資金は、前連結会計年度に比べて113,243千円少ない1113,293千円となりました。

以上の結果、フリーキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べて58,575千円多い1254,096千円となりました。財務活動に使用された資金は、前連結会計年度に比べて147,556千円少ない196,697千円となりました。

なお、キャッシュ・フローの詳細は、「7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (2) 財政状態の分析 2 キャッシュ・フローの状況」に記載しております。

2【仕入、受注及び販売の状況】

(1) 仕入実績

当連結会計年度の仕入実績を事業の区分ごとに示すと、次のとおりであります。

事業の区分	当連結会計年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)	前年同期比(%)
ネットワークソリューション事業(千円)	1,252,924	20.5
ネットワークサービス事業(千円)	216,774	35.1
合計(千円)	1,469,698	22.5

(注) 上記の金額に消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当連結会計年度の受注状況を事業の区分ごとに示すと、次のとおりであります。

事業の区分	当連結会計年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)			
	受注高 (千円)	前年同期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同期比 (%)
ネットワークソリューション事業	1,574,199	17.1	64,717	65.5
ネットワークサービス事業	1,006,688	0.8	103,880	67.4
合計	2,580,887	9.4	168,598	32.4

(注) 上記の金額に消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度の販売実績を事業の区分ごとに示すと、次のとおりであります。

事業の区分	当連結会計年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)	前年同期比(%)
ネットワークソリューション事業(千円)	1,698,450	13.2
ネットワークサービス事業(千円)	966,071	0.3
合計(千円)	2,664,521	7.9

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

3【対処すべき課題】

(1) 当社グループの現状の認識について

当社グループの属するネットワーク市場は、セキュリティ、モバイル、クラウドといった分野で、通信事業者や一般事業者において、より一層の活性化が見込まれます。

一方、当社グループの業績は、前連結会計年度、当連結会計年度と大幅に改善が進み、借入金の圧縮についても大きく進展しておりますが、より一層のバランスシートの改善が必要であります。

このような環境のもと、当社グループといたしましては、対処すべき課題として以下の点を認識しております。

(2) 当面の対処すべき課題の内容

新規事業・商品の早期収益化

収益化が遅れております新規事業・商品について早期収益化を目指してまいります。

“商品開拓力”を活かした先端的な技術・製品の積極的な市場への投入の継続

当社グループの既存取扱製品とのシナジーを考慮しつつ、従来通り有望なベンダの積極的な開拓を進め、市場への投入を進めることにより、他社との差別化を図ってまいります。

また、IPトラフィック等の増加、ネットワーク上の脅威の巧妙化など、ネットワーク上での様々な解決に向け、従来のセキュリティ製品の拡充ばかりでなく、独自のサービスやソリューションの提供等を展開してまいります。

事業の安定のためのバランスシートの改善

各種の方策によりバランスシートの改善を進めてまいります。

優秀な人材の確保及び教育

有為な人材の確保に積極的に取り組み、早期養成を図ってまいります。

当社グループは、上記に掲げた課題に積極的に取り組み、今後も継続的な成長に努めてまいります。

4【事業等のリスク】

当社グループの事業展開その他に関してリスク要因となる可能性がある主な事項には、以下のようなものがあります。また、投資判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項についても、株主及び投資家に対する情報開示の観点から積極的に記載しております。なお、記載事項のうち将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社が判断したものであります。

1．事業内容に関するリスクについて

(1) 当社グループの属する市場の状況について

ネットワーク関連市場は、今後も堅調に推移するものと予想されますが、市場の成長が当社グループの予測に見合わない場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。また、市場規模の拡大に伴い競合他社との競争が激化するものと予想され、当社グループの競争力及び市場の状況いかんによっては当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 製品の陳腐化、適正在庫の確保等について

ネットワーク関連市場は、市場規模が拡大しているのと同時に、短期間のうちに技術が進化しております。仕入製品の選択、製品開発にあたっては、積極的な最新技術動向の調査や市場調査の実施による顧客ニーズの見極め、特定の仕入先への依存回避により市場への対応力を強化してまいりますが、製品の競争力いかんによっては、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

また、ネットワーク関連市場の急速な技術革新は当社グループの取扱商品及びサービスのライフサイクルを比較的短いものにしてしているため、保有在庫品の陳腐化により、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

その他顧客ニーズへの迅速な対応、販売機会の最大化を目的に、適正在庫水準の維持に努めておりますが、当社グループの対応を超える変動により製品の供給不足が生じた場合、顧客との間のビジネスチャンスを逸失し、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 製品の不具合が生じた場合の責任について

当社グループは、ネットワーク関連商品の輸入、開発、販売とネットワーク構築等のサービス提供を主な業務としております。当社グループが納入するネットワーク関連機器やネットワーク構築等の請負業務については、機器単体の入出荷検査等の実施や自社内での動作確認により不具合が生じないようにするための体制を整えておりますが、何らかの不具合が生じた場合、顧客の信頼を喪失すると共に業績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 為替変動による影響について

当社グループの取扱製品には、海外メーカの製品が占める割合が多く、仕入の大半が米ドル建決済となっているため、仕入債務について為替リスクを有しています。日本円と米ドル間の為替相場が円安傾向となった場合、円換算した仕入価格が増加することになりますが、その時点のネットワーク関連市場における競争状況いかんでは、かかる増加分を適正に製品の販売価格に反映できず、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 各メーカとの代理店契約について

当社グループは、特定メーカに依存しないマルチベンダ対応を基本方針として事業を行っており、当社グループのネットワークソリューション事業における商品群は多様なメーカの商品で構成しているため、特定のメーカとの契約が終了した場合でも利益計画に影響が出にくい構造となっております。現在各メーカとは良好な関係を構築しておりますが、特定のメーカとの契約が現状予測し得ない理由により終了に至るといった事態が発生した場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

2．現在の人材確保の対応状況について

ネットワークインテグレータは知識集約ビジネスであるため、エンジニアをはじめとして有能な人材の確保が必須ですが、労働市場の逼迫等により必要な人員の確保が今後計画通りに進まない場合には、当社グループの利益計画に影響を及ぼす可能性があります。

3. 創業者社長への依存について

当社は設立以来、現代表取締役渡部進が製品・ソリューションの決定、対象市場の決定を実質的に行ってきており、それらの選択の結果が現在の当社のユニークな気風となり、結果としてその規模にも関わらず業界で注目されてきました。

現在は初期の新卒入社メンバーが中堅幹部として社内的にその存在感が増してきており、かつ外部からの人材の登用を進めマネジメント層を形成しつつあります。彼らは当社の経営戦略に直接的に寄与しはじめておりますが、外部から見たときの創業者の知名度を補うにはあと数年を要すると考えられることから、この間に創業者が不測の事故その他の事情により当社の経営に関与できない事態となった場合には、当社グループの利益計画に影響を及ぼす可能性があります。

4. その他

(1) 新興企業への投資や戦略的提携、及び企業買収について

当社グループは、当社グループの販売先となる新しいビジネスモデルを模索する新興企業や当社グループの有力仕入先となる可能性がある海外の新技术開発のベンチャー企業などに対して、対象企業との関係強化を主目的として小規模な投資を実施しており、今後も継続して投資を実施する方針であります。投資先の選定にあたっては慎重を期しておりますが、それら投資先の成長が期待した通りいかず投資回収が不能となった場合や、保有株式の減損処理が必要となった場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。また当社グループは、既存の事業基盤を拡大するため、あるいは新たな事業における進出・補強等のために、事業戦略の一環として企業買収や資本提携を含む戦略的提携を行う可能性があります。企業買収や戦略的提携に際しては十分な検討を行います。新しい事業戦略が成功する保証はなく、各種事由により事業計画が当初計画通りに進捗しない場合には、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(2) 新規事業について

当社グループは、市場のニーズに呼応した新たな事業を積極的に展開しておりますが、これらの新規事業の推進が予定通り実行できる保証はなく、損失を被る可能性もあります。また、環境や競合状態の変化等により、これらの事業展開が不可能になったり、有用性を失ったりする可能性もあります。このような場合、当社グループの業績に悪影響を与える可能性があります。

(3) 新株予約権の付与と株式の希薄化について

当社は、役員、従業員及び社外協力者に対して業績向上の意欲や、士気を高めることを目的として新株引受権及び新株予約権（ストックオプション）を付与しております。

平成24年12月31日現在、ストックオプションによる潜在株式数は336株で、発行済株式総数に対する比率は3.5%となっております。現在付与しているストックオプションの行使や行使により取得された株式の売却が行われた場合には、株式価値の希薄化や株式売上の需給への影響をもたらす、株価形成へ影響を及ぼす可能性があります。また、当社グループは、役員・従業員の士気を高め有能な人材を獲得するためのインセンティブプランとして今後も新株予約権の付与を行う可能性があります。さらなる新株予約権の付与は、株式価値の希薄化をまねく恐れがあります。

(4) 情報管理について

当社グループの事業においては、顧客に関わるデータを取り扱うことがあり、その中には顧客の機密情報や個人情報が含まれる場合があります。これらの重要情報を適切に保護することは、業務運営上重要事項と認識しており、情報管理についての方針策定、情報環境の整備及び社員教育等を通じて、当社グループ内部からの漏洩防止及び社外からの不正アクセス防止等に努めていく所存であります。万一、当社グループから重要情報が外部に流出するような事態が生じた場合には、社会的信用を失い、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性がある他、当社グループに対する損害賠償請求、その他責任追及がなされる可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6【研究開発活動】

該当事項はありません。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態の分析

当連結会計年度末における総資産は前連結会計年度末と比較し179,878千円増加し1,468,576千円となりました。当連結会計年度の流動資産は前連結会計年度末と比較し276,491千円増加し902,465千円となりました。主な増加は、現金及び預金161,394千円、売上債権102,155千円、繰延税金資産40,280千円であり、主な減少は前渡金21,288千円であります。

当連結会計年度の固定資産は前連結会計年度末と比較し96,612千円減少し566,111千円となりました。主な増加は、長期貸付金57,000千円であり、主な減少は、のれん111,372千円、貸倒引当金30,528千円であります。

当連結会計年度の流動負債は前連結会計年度末と比較し22,983千円増加し951,012千円となりました。主な増加は、買掛金87,853千円であり、主な減少は、1年内返済予定の長期借入金65,400千円であります。

当連結会計年度の固定負債は前連結会計年度末と比較し10,701千円増加し231,572千円となりました。主な増加は、繰延税金負債27,567千円であり、主な減少は、長期借入金16,314千円であります。

当連結会計年度の純資産は前連結会計年度末と比較し146,192千円増加し285,991千円となりました。主な増加は、当期純利益に伴う利益剰余金109,959千円、その他有価証券評価差額金49,999千円であります。

(2) 経営成績の分析

(売上高)

当連結会計年度の売上高は2,664,521千円（前年同期比7.9%増）となりました。各事業部門ごとの売上高及び構成比は、ネットワークソリューション事業が1,698,450千円（前年同期比13.2%増）で63.7%、ネットワークサービス事業が966,071千円（前年同期比0.3%減）で36.3%となっております。

ネットワークソリューション事業につきましては、新規商品のFireEye社、VSSモニタリング社、Vidyo社の各商品が立ち上がりつつあり、また、既存商品であるFortinet社等のセキュリティ関連商品や無線LANのAruba社商品が堅調に推移した結果、前年同期を上回りました。

ネットワークサービス事業につきましては、ネットワーク構築等のサービス及び当社独自のサービス商品であるマネージドVPNサービスは堅調でしたが、保守が低調に推移したため、前年同期を僅かに下回りました。

(売上原価、売上総利益)

当連結会計年度における売上原価は1,511,967千円（前年同期比15.9%増）、売上総利益が1,152,554千円（前年同期比1.1%減）となりました。売上原価率は、前年同期の52.8%から56.7%へと3.9ポイント増加いたしました。この結果、売上高総利益率は43.3%（前年同期47.2%）となりました。

(営業利益)

当連結会計年度における営業利益は123,590千円（前年同期比3.9%減）となりました。

販売費及び一般管理費は僅かに減少したものの、営業利益は前年同期を下回りました。売上高販売費及び一般管理費比率は前年同期の42.0%から38.6%と3.4ポイント減少し、営業利益率は4.6%（前年同期5.2%）となりました。

(営業外損益、経常利益、特別損益)

当連結会計年度における営業外損益は85千円の損失（前年同期20,581千円の損失）を計上しております。

主なものは、営業外収益の固定資産賃貸収入10,697千円、営業外費用の支払利息11,470千円、為替差損5,161千円であります。この結果、経常利益は123,504千円（前年同期比14.3%増）となり、売上高経常利益率は4.6%（前年同期比4.4%）となりました。

当連結会計年度における特別損益は66,194千円の損失（前年同期78,844千円の損失）を計上しております。

主なものは、特別利益の投資有価証券売却益15,973千円、固定資産売却益10,198千円、特別損失の投資有価証券評価損57,539千円、貸倒引当金繰入額28,500千円であります。

(当期純利益)

当連結会計年度における当期純利益は109,959千円（前年同期比494.2%増）となりました。これにより、売上高当期純利益率は前年同期の0.7%から4.1%へと大きく改善いたしました。1株当たり当期純利益は11,651円94銭（前年同期1,960円88銭）となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当連結会計年度における現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度末と比較し160,394千円増加し247,406千円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度と比べ54,668千円収入が減少し、367,389千円の収入となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益57,310千円、減価償却費77,546千円、のれん償却額111,372千円その他、仕入債務の増加87,853千円があった一方で、売上債権の増加102,155千円があったことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度と比べ113,243千円支出が減少し、113,293千円の支出となりました。これは主に、投資固定資産の売却による収入10,175千円、投資有価証券の売却による収入16,138千円があった一方で、貸付けによる支出57,000千円、有形固定資産の取得による支出46,985千円、営業譲受による支出28,035千円があったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度と比べ147,556千円支出が減少し、96,697千円の支出となりました。これは主に、短期借入れによる純支出14,000千円、長期借入れによる純支出81,714千円があったことによるものです。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

保守用機器の充実、ネットワーク製品等の評価・検証のための社内検証用等機器の充実・強化などを目的とした設備投資を継続的に実施しております。当連結会計年度の設備投資等の総額は43,689千円であります。

2【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成24年12月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)	
			建物	車両運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他		合計
本社 (神奈川県横須賀市)	全社	統括業務 事業拠点	-	477	- (-)	-	9,537	10,015	9
東京オフィス (東京都大田区)	全社	事業拠点	25,869	-	- (-)	1,658	77,853	105,382	61
大阪オフィス (大阪府大阪市中央区)	全社	事業拠点	-	-	- (-)	-	-	-	1

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品及びソフトウェアであります。なお、金額には消費税等は含まれておりません。

2. 現在休止中の設備はありません。

3. 上記の他、主要な賃借設備として、以下のものがあります。

事業所名 (所在地)	設備の内容	賃借設備	床面積 (㎡)	年間賃借料 (千円)
本社 (神奈川県横須賀市)	統括業務 事業拠点	建物	99.14	3,403
東京オフィス (東京都大田区)	事業拠点	建物	869.06	25,820
大阪オフィス (大阪府大阪市中央区)	事業拠点	建物	78.56	3,706

4. リース契約による主な賃借設備は、次のとおりであります。

名称	数量 (台)	リース期間 (年)	年間リース料 (千円)	リース契約残高 (千円)
プリンター (所有権移転外ファイナンスリース)	2	5年～6年	2,084	1,138

(2) 国内子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
				建物	車両運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
㈱イノコス	本社 (東京都品川区)	全社	統括業務 事業拠点	409	-	- (-)	2,983	3,393	13
㈱ボックス	本社 (東京都大田区)	全社	統括業務 事業拠点	-	-	- (-)	3,082	3,082	1

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品及びソフトウェアであります。なお、金額には消費税等は含まれておりません。

2. 上記の他、主要な賃借設備として、以下のものがあります。

事業所名 (所在地)	設備の内容	賃借設備	床面積 (㎡)	年間賃借料 (千円)
㈱イノコス 本社 (東京都品川区)	統括業務 事業拠点	建物	160.69	5,832

3【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	32,000
計	32,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成24年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年3月29日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,521	9,521	東京証券取引所 (マザーズ)	当社は単元株制度 を採用しておりま せん。
計	9,521	9,521	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成25年3月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

平成15年3月31日定時株主総会特別決議

区分	事業年度末現在 (平成24年12月31日)	提出日の前月末現在 (平成25年2月28日)
新株予約権の数(個)	12	12
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	24	24
新株予約権の行使時の払込金額(円)	200,000	同左
新株予約権の行使期間	平成17年4月1日～ 平成25年3月31日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 200,000 資本組入額 100,000	同左
新株予約権の行使の条件	新株予約権の行使は、行使しようとする新株予約権または新株予約権者について、発行要項に定める消却事由が発生していないことを条件とする。ただし、取締役会の決議により特に行使を認められた場合はこの限りではない。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権の譲渡、質入その他の処分をすることができない。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-	-

(注) 1. 新株予約権発行後、株式分割または時価を下回る価額で新株等を発行する場合は、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとし、調整により生じる1株の100分の1未満の端数についてはこれを切り上げるものとする。ただし、かかる調整は、本件新株予約権のうち、当該時点で行使または消却されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われるものとする。

$$\text{調整後株式数} = \frac{\text{調整前株式数} \times \text{調整前行使価額}}{\text{調整後行使価額}}$$

また、株式分割または時価を下回る価額で新株等を発行する場合は、次の算式により行使価額を調整するものとする。

$$\text{調整後行使価額} = \frac{\text{既発行株式数} \times \text{調整前行使価額} + \text{新発行株式数} \times \text{1株当り払込金額}}{\text{既発行株式数} + \text{新発行株式数}}$$

2. 平成17年8月10日開催の取締役会決議により、平成17年8月30日付で1株を2株とする株式分割を行っております。これにより、「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。

3. 新株予約権の数及び新株予約権の目的となる株式の数は、退職に伴う失権分を減じて表記しております。

平成16年3月31日定時株主総会特別決議及び平成16年12月13日取締役会決議

区分	事業年度末現在 (平成24年12月31日)	提出日の前月末現在 (平成25年2月28日)
新株予約権の数(個)	21	21
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	42	42
新株予約権の行使時の払込金額(円)	200,000	同左
新株予約権の行使期間	平成18年4月1日～ 平成26年3月31日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 200,000 資本組入額 100,000	同左
新株予約権の行使の条件	新株予約権の行使は、行使しようとする新株予約権または新株予約権者について、発行要項に定める消却事由が発生していないことを条件とする。ただし、取締役会の決議により特に行使を認められた場合はこの限りではない。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権の譲渡、質入その他の処分をすることができない。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-	-

(注) 1. 新株予約権発行後、株式分割または時価を下回る価額で新株等を発行する場合は、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとし、調整により生じる1株の100分の1未満の端数についてはこれを切り上げるものとする。ただし、かかる調整は、本件新株予約権のうち、当該時点で行使または消却されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われるものとする。

$$\text{調整後株式数} = \frac{\text{調整前株式数} \times \text{調整前行使価額}}{\text{調整後行使価額}}$$

また、株式分割または時価を下回る価額で新株等を発行する場合は、次の算式により行使価額を調整するものとする。

$$\text{調整後行使価額} = \frac{\text{既発行株式数} \times \text{調整前行使価額} + \text{新発行株式数} \times 1 \text{株当り払込金額}}{\text{既発行株式数} + \text{新発行株式数}}$$

2. 平成17年8月10日開催の取締役会決議により、平成17年8月30日付で1株を2株とする株式分割を行っております。これにより、「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。
3. 新株予約権の数及び新株予約権の目的となる株式の数は、退職に伴う失権分を減じて表記しております。

平成16年3月31日定時株主総会特別決議及び平成17年1月31日取締役会決議

区分	事業年度末現在 (平成24年12月31日)	提出日の前月末現在 (平成25年2月28日)
新株予約権の数(個)	5	5
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	10	10
新株予約権の行使時の払込金額(円)	200,000	同左
新株予約権の行使期間	平成18年4月1日～ 平成27年3月31日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 200,000 資本組入額 100,000	同左
新株予約権の行使の条件	新株予約権の行使は、行使しようとする新株予約権または新株予約権者について、発行要項に定める消却事由が発生していないことを条件とする。ただし、取締役会の決議により特に行使を認められた場合はこの限りではない。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権の譲渡、質入その他の処分をすることができない。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-	-

(注) 1. 新株予約権発行後、株式分割または時価を下回る価額で新株等を発行する場合は、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとし、調整により生じる1株の100分の1未満の端数についてはこれを切り上げるものとする。ただし、かかる調整は、本件新株予約権のうち、当該時点で行使または消却されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われるものとする。

$$\text{調整後株式数} = \frac{\text{調整前株式数} \times \text{調整前行使価額}}{\text{調整後行使価額}}$$

また、株式分割または時価を下回る価額で新株等を発行する場合は、次の算式により行使価額を調整するものとする。

$$\text{調整後行使価額} = \frac{\text{既発行株式数} \times \text{調整前行使価額} + \text{新発行株式数} \times 1 \text{株当り払込金額}}{\text{既発行株式数} + \text{新発行株式数}}$$

2. 平成17年8月10日開催の取締役会決議により、平成17年8月30日付で1株を2株とする株式分割を行っております。これにより、「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。

平成17年3月31日定時株主総会特別決議

区分	事業年度末現在 (平成24年12月31日)	提出日の前月末現在 (平成25年2月28日)
新株予約権の数(個)	88	88
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	176	176
新株予約権の行使時の払込金額(円)	202,000	同左
新株予約権の行使期間	平成17年7月1日～ 平成27年3月31日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 202,000 資本組入額 101,000	同左
新株予約権の行使の条件	新株予約権の行使は、行使しようとする新株予約権または新株予約権者について、発行要項に定める消却事由が発生していないことを条件とする。ただし、取締役会の決議により特に行使を認められた場合はこの限りではない。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権の譲渡、質入その他の処分をすることができない。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-	-

(注) 1. 新株予約権発行後、株式分割または時価を下回る価額で新株等を発行する場合は、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとし、調整により生じる1株の100分の1未満の端数についてはこれを切り上げるものとする。ただし、かかる調整は、本件新株予約権のうち、当該時点で行使または消却されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われるものとする。

$$\text{調整後株式数} = \frac{\text{調整前株式数} \times \text{調整前行使価額}}{\text{調整後行使価額}}$$

また、株式分割または時価を下回る価額で新株等を発行する場合は、次の算式により行使価額を調整するものとする。

$$\text{調整後行使価額} = \frac{\text{既発行株式数} \times \text{調整前行使価額} + \text{新発行株式数} \times 1 \text{株当り払込金額}}{\text{既発行株式数} + \text{新発行株式数}}$$

2. 平成17年8月10日開催の取締役会決議により、平成17年8月30日付で1株を2株とする株式分割を行っております。これにより、「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。

3. 新株予約権の数及び新株予約権の目的となる株式の数は、退職に伴う失権分を減じて表記しております。

平成18年3月29日定時株主総会特別決議

区分	事業年度末現在 (平成24年12月31日)	提出日の前月末現在 (平成25年2月28日)
新株予約権の数(個)	84	84
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	84	84
新株予約権の行使時の払込金額(円)	985,521	同左
新株予約権の行使期間	平成18年6月1日～ 平成28年3月31日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 985,521 資本組入額 492,761	同左
新株予約権の行使の条件	新株予約権の行使は、行使しようとする新株予約権または新株予約権者について、発行要項に定める消却事由が発生していないことを条件とする。ただし、取締役会の決議により特に行使を認められた場合はこの限りではない。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権の譲渡、質入その他の処分をすることができない。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-	-

(注) 1. 本新株予約権の目的となる株式1株当りの払込金額(以下、「行使価額」という。)は、本新株予約権の発行日の属する月の前月の各日(取引が成立しない日を除く。)における東京証券取引所の当社株式の普通株式の終値の平均値に1.05を乗じた金額とし、1円未満の端数は切り上げる。ただし、その金額が発行日の終値を下回る場合には、当該終値を払込価額とする。また、各新株予約権(新株予約権1個当たり)の行使に際して払込をすべき金額は、行使価額に新株予約権1個当たりの目的となる株式数を乗じた金額とする。

なお、本新株予約権発行後、株式の分割または併合を行う場合は行使価額は、次の算式により調整されるものとし、調整により生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使金額} = \text{調整前行使金額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で新株を発行または自己株式の処分を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使金額} = \text{調整前行使金額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当り払込金額}}{\text{新規発行前の時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

上記算式において、「既発行株式数」とは当社の発行済株式総数から当社が保有する自己株式の総数を控除した数とし、自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとする。

2. 新株予約権の数及び新株予約権の目的となる株式の数は、退職に伴う失権分を減じて表記しております。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成20年6月5日 (注)1	0.44	9,489	-	366,759	-	383,009
平成22年1月1日～ 平成22年12月31日 (注)2	32	9,521	3,222	369,981	3,222	386,231

(注)1. 自己株式の消却による減少であります。

2. 新株予約権の権利行使による増加であります。

(6) 【所有者別状況】

平成24年12月31日現在

区分	株式の状況							計	単元未満株 式の状況 (株)
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他		
					個人以外	個人			
株主数 (人)	-	1	9	6	7	4	1,011	1,038	-
所有株式数 (株)	-	70	141	1,509	36	17	7,748	9,521	-
所有株式数 の割合 (%)	-	0.73	1.48	15.85	0.38	0.18	81.38	100.00	-

(注) 自己株式84株は、「個人その他」に含めて記載しております。

(7) 【大株主の状況】

平成24年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
渡部 進	神奈川県横須賀市	3,711	38.97
有限会社シークス	神奈川県横須賀市馬堀海岸3-18-16	1,460	15.33
渡部 美津子	神奈川県横須賀市	239	2.51
寺田 賢太郎	神奈川県藤沢市	91	0.95
米津 久矢	愛知県名古屋市中央区	79	0.82
太田 祐樹	神奈川県横須賀市	73	0.76
渡部 耕平	神奈川県横須賀市	72	0.75
渡部 慎平	神奈川県横須賀市	72	0.75
大阪証券金融株式会社	大阪府大阪市中央区北浜2-4-6	70	0.73
橋本 文男	栃木県足利市	56	0.58
計	-	5,923	62.20

(注) 上記のほか、自己株式が84株あります。

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 84	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,437	9,437	権利内容に何ら限定 のない当社における 標準となる株式
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	9,521	-	-
総株主の議決権	-	9,437	-

【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(株)ネットワーク バリューコンポ ネンツ	神奈川県横須賀市 小川町14番地 - 1	84	-	84	0.88
計	-	84	-	84	0.88

(9) 【ストックオプション制度の内容】

当社は、ストックオプション制度を採用しております。当該制度は、旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定及び、会社法の規定に基づき新株予約権を発行する方法によるものであります。当該制度の内容は以下のとおりであります。

旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づく株主総会特別決議によるもの
(平成15年3月31日 定時株主総会決議)

決議年月日	平成15年3月31日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役3名、当社監査役1名、当社従業員37名 (注)
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額(円)	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-

(注) 提出日現在、当社取締役1名及び従業員17名が退職等により権利を喪失しております。

(平成16年3月31日 定時株主総会決議)

決議年月日	平成16年3月31日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役3名、当社監査役1名、当社従業員24名 (注)
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額(円)	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-

(注) 提出日現在、当社取締役1名、監査役1名及び従業員14名が退職等により権利を喪失しております。

(平成16年3月31日 定時株主総会決議)

決議年月日	平成16年3月31日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役1名、社外協力者2名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額(円)	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-

(平成17年3月31日 定時株主総会決議)

決議年月日	平成17年3月31日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役4名、当社監査役2名、当社従業員40名、社外協力者4名(注)
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額(円)	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-

(注) 提出日現在、当社取締役1名、監査役2名及び従業員27名が退職等により権利を喪失しております。

(平成18年3月29日 定時株主総会決議)

決議年月日	平成18年3月29日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役5名、当社監査役2名、当社従業員61名(注)
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額(円)	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-

(注) 提出日現在、当社監査役2名及び従業員44名が退職等により権利を喪失しております。

会社法第361条及び第387条の規定に基づく株主総会決議によるもの
 (平成20年3月28日 定時株主総会決議)

決議年月日	平成20年3月28日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役及び監査役
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数(株)	取締役に対して200株、監査役に対して40株を各事業年度における総株数の上限とする。(注)1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	(注)2
新株予約権の行使期間	新株予約権の募集事項を決定する取締役会決議の日の翌日から当該決議の日後10年を経過する日までの範囲内で、当該取締役会決議の定めるところによる。
新株予約権の行使の条件	(注)3
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権の譲渡、質入その他の処分をすることができない。
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)4

(注) 1. 当社が株式の分割または株式の併合を行う場合、その他株式数の変更をすることが適切な場合は、当社が必要と認める処理を行うものとする。

2. 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、新株予約権の行使により交付を受ける株式1株当たりの払込金額(以下「行使価額」という。)に、付与株数を乗じた金額とする。
 行使価額は、新株予約権の割当日の属する月の前月の各日(取引が成立しない日を除く。)における東京証券取引所の当社普通株式の普通取引の終値の平均値に1.05を乗じた金額とし、1円未満の端数は切り上げるものとする。ただし、当該金額が新株予約権割当日の終値(当日に売買がない場合は、それに先立つ直近日の終値)を下回る場合には、当該終値を行使価額とする。

なお、新株予約権の割当日後に、当社が株式の分割または株式の併合を行う場合、その他1株当たりの価額の変更をすることが適切な場合は、当社が必要と認める処理を行うものとする。

3. 新株予約権の権利行使の条件は、下記のとおりとする。

(1) 新株予約権の割当を受けた者は、新株予約権の行使時においても当社または当社子会社の取締役、監査役または従業員その他これに準ずる地位であることを要する。ただし、取締役会の決議により特に行使を認められた場合はこの限りではない。

(2) 新株予約権の相続は認めない。

(3) その他の権利行使条件については、当社と新株予約権の割当てを受けた者との間で締結する新株予約権割当契約に定める。

4. 新株予約権の取得の事由及び条件は、下記のとおりとする。

(1) 当社が消滅会社となる合併契約書が株主総会において承認されたとき、または当社が完全子会社となる株式交換契約書もしくは株式移転の議案が株主総会で承認されたときは、当社は新株予約権を無償で取得することができる。

(2) 新株予約権の割当日から新株予約権を行使することができる期間の開始日の前日までの間に、市場価格の終値が一度でも割当日の終値の60%を下回った場合において、当社取締役会が取得する日を定めたときは、当該日が到来することをもって、当社は当該新株予約権を無償で取得することができる。

(3) 新株予約権の割当てを受けた者が、第5項に定める事由により新株予約権を行使する条件に該当しなくなったときは、当社は当該新株予約権を無償で取得することができる。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
保有自己株式数	84	-	84	-

3【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を重要な経営課題の一つと考えており、経営基盤の一層の強化と事業拡大に必要な内部留保の充実を考慮しつつ、業績に連動した株主配当を行うことを基本方針としております。具体的には単体業績ベースの配当性向50%を目処とし、特別な損益等の特殊要因により税引後当期純利益が大きく変動する事業年度については、その影響を考慮し配当額を決定いたします。

当社は、期末配当による年1回剰余金の配当を行うことを基本方針としており、この剰余金の配当の決定機関は株主総会であります。また、当社は、取締役会の決議により、毎年6月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

当事業年度の配当につきましては、配当原資の確保ができないため、誠に遺憾ながら無配とさせていただきます。

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第19期	第20期	第21期	第22期	第23期
決算年月	平成20年12月	平成21年12月	平成22年12月	平成23年12月	平成24年12月
最高(円)	204,000	84,000	392,500	132,900	169,000
最低(円)	50,000	28,600	44,600	41,300	49,200

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所マザーズにおけるものであります。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	160,000	111,100	83,500	142,000	145,000	107,000
最低(円)	70,300	76,200	74,500	72,200	98,100	95,100

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所マザーズにおけるものであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役	社長	渡部 進	昭和24年 1月19日	昭和47年 4月 立石電機(株)(現オムロン(株))入社 昭和61年 4月 Thomas & Betts社日本法人入社 取締役営業本部長 平成 2年 4月 当社設立 代表取締役(現任) 平成 7年 3月 (有)シークス設立 代表取締役 (現任) (株)ネットソース(旧(株)エヌブイ シーカスタマーサービス、当社 へ吸収合併)設立 代表取締役 平成13年12月 (株)ネットソース取締役 平成14年12月 (株)ネットソース吸収合併に伴い 同社取締役退任 平成18年12月 (株)ジャパン・モバイル・プラッ トホーム代表取締役 平成20年 8月 (株)n2テクノロジー設立(旧(株) セーブルネットワークス)代表 取締役 平成20年 9月 (株)セーブルネットワークス設立 (旧(株)セーブルネットワークス ジャパン)代表取締役 平成20年 9月 米Sable Networks Inc.取締役 (現任) 平成20年12月 (株)セーブルネットワークス取締 役 (株)n2テクノロジー代表取締役退 任 平成21年 2月 (株)ジャパン・モバイル・プラッ トホーム代表取締役退任 平成22年 1月 (株)イノコス設立 代表取締役 平成22年 2月 (株)セーブルネットワークス代表 取締役 (株)ボックス取締役(現任) 平成22年 3月 ブロードアース(株)取締役(現 任) 平成23年 2月 (株)イノコス取締役(現任)	平成25 年 3月 28日の 定時株 主総会 から 2 年間	3,711
取締役	内部監査室長	渡部 美津子	昭和29年 1月 9日	昭和49年 4月 立石電機(株)(現オムロン(株))入社 平成 2年 4月 当社常勤監査役 平成 7年 3月 (有)シークス取締役(現任) (株)ネットソース(旧(株)エヌブイ シーカスタマーサービス、当社 へ吸収合併)取締役 平成12年 3月 (株)ネットソース代表取締役 当社取締役 平成15年 1月 (株)ネットソース吸収合併に伴い 同社代表取締役退任 平成17年 3月 当社取締役退任 平成17年 7月 当社取締役内部監査室長(現 任) 平成23年 3月 (株)セーブルネットワークス監査 役 (株)ボックス監査役(現任)	平成25 年 3月 28日の 定時株 主総会 から 2 年間	239

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	エンジニアリング部ディレクター	太田 祐樹	昭和46年12月18日	平成7年4月 当社入社 平成10年1月 当社セールス部マネージャー 平成15年4月 当社取締役(現任) 平成15年10月 当社ビジネスデベロップメント部マネージャー 平成18年7月 当社セールス部マネージャー 平成19年1月 当社セールス1部マネージャー 平成19年7月 当社セールス部マネージャー 平成20年1月 当社セールス2部ディレクター(呼称変更、旧マネージャー) 平成20年12月 ㈱セーブルネットワークス(旧㈱セーブルネットワークスジャパン)代表取締役 平成22年1月 当社エンジニアリング部ディレクター(現任) 平成22年2月 ㈱セーブルネットワークス取締役 ㈱イノコス取締役	平成25年3月28日の定時株主総会から2年間	73
取締役	アドミニストレーション部ディレクター	寺田 賢太郎	昭和45年12月11日	平成8年4月 当社入社 平成11年1月 当社アドミニストレーション部ディレクター(呼称変更、旧マネージャー)(現任) 平成15年4月 当社取締役(現任) 平成22年1月 ㈱イノコス取締役 平成22年2月 ㈱セーブルネットワークス取締役 ㈱ボックス取締役(現任) 平成24年2月 ㈱イノコス監査役(現任)	平成25年3月28日の定時株主総会から2年間	91
取締役	オペレーション部ディレクター	荒井 祐二	昭和47年9月11日	平成8年4月 当社入社 平成13年4月 当社オペレーション部ディレクター(呼称変更、旧マネージャー) 平成20年3月 当社取締役(現任) 平成20年4月 ㈱ジャパン・モバイル・プラットフォーム取締役 平成21年1月 当社セールス部ディレクター 平成21年2月 ㈱ジャパン・モバイル・プラットフォーム取締役退任 平成22年1月 当社オペレーション部ディレクター(現任)	平成25年3月28日の定時株主総会から2年間	34

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
常勤監査役	-	倉本 實	昭和17年1月30日	昭和39年4月 日本電信電話公社入社 昭和62年4月 日本電信電話(株)移動体通信事業部システム開発部長 平成4年7月 NTT移動通信網(株)取締役研究開発部長 平成8年6月 同社常務取締役研究開発部長 平成10年6月 松下通信工業(株)理事移動体通信開発担当理事 平成11年6月 同社常務取締役技術本部長 平成12年6月 同社専務取締役通信事業担当兼技術本部長 平成15年1月 パナソニックモバイルコミュニケーションズ(株)取締役副社長 平成17年6月 同社技術特別顧問 平成19年2月 同社退社 平成20年3月 当社常勤監査役(現任)	平成24年3月28日の定時株主総会から4年間	20
監査役	-	倉田 勲	昭和16年3月8日	昭和38年4月 金融財政事情研究会入社 昭和49年4月 「週刊金融財政事情」編集長 昭和56年5月 金融財政事情研究会関西支部長 昭和60年5月 同会理事 昭和63年5月 同会専務理事・事務局長 平成2年4月 当社取締役 平成8年10月 金融財政事情研究会理事長代行(専務理事) 平成9年5月 同会専務理事兼編集局長(理事長代行を解く) 平成15年4月 (委嘱) 金融財政事情研究会編集局長兼「週刊金融財政事情」編集長 平成18年11月 同会副理事長専務理事・編集局長(委嘱) 平成20年3月 当社監査役(現任) 平成23年4月 一般社団法人金融財政事情研究会理事長(現任)	平成24年3月28日の定時株主総会から4年間	8
監査役	-	安田 正敏	昭和22年8月17日	昭和46年6月 (株)日立製作所入社 昭和48年6月 (株)日立総合計画研究所出向 昭和58年1月 シティバンク エヌ・エイ東京支店金融デリバティブ部門ヘッド 昭和63年6月 シティコープ・スクリムジャー・ヴィッカーズ証券東京支店長 平成4年7月 キャンターフィッツジェラルド証券会社の日代表 平成13年7月 ブランナビコンサルティングエル・エル・シー設立、代表(現任) 平成18年1月 (株)MM総研取締役副所長 平成21年10月 一般社団法人実践コーポレートガバナンス研究会専務理事(現任) 平成22年1月 (株)MM総研顧問(現任) 平成22年3月 当社監査役(現任)	平成25年3月28日の定時株主総会から4年間	-
計						4,176

(注) 1. 取締役 渡部 美津子は、代表取締役 渡部 進の配偶者であります。

2. 監査役 倉本 實氏及び安田 正敏氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

(1) コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、コーポレート・ガバナンスを企業の重要課題であると認識しており、経営の透明性・公正性・迅速な意思決定の維持向上に努めるべく諸施策に取り組んでまいります。

(2) 企業統治の体制の概要

当社は、株主総会及び取締役のほか、取締役会、監査役及び監査役会並びに会計監査人を会社の機関として設置しております。

取締役・取締役会

取締役は、提出日現在5名であり、監査役3名を含めた8名で取締役会を運営しております。取締役会は毎月1回の定例取締役会の開催のほか、必要に応じて臨時取締役会を開催しております。取締役会においては、法令や定款で定められた事項や経営に関する重要事項の決定を行っております。

監査役・監査役会

監査役は、提出日現在社外監査役2名（うち1名は常勤監査役、東京証券取引所へ独立役員として届出）を含む3名で監査役会を運営しております。監査役会は、毎月1回の定例監査役会の開催のほか、必要に応じて臨時監査役会を開催しております。各監査役は会計監査を行うとともに、原則として取締役会に出席し、取締役の職務執行状況について監視をしております。さらに常勤監査役については取締役会以外の社内の重要会議にも参加しており、業務執行の状況の監視に努めております。

会計監査の状況

当社の会計監査人は、監査法人五大であり、当社の平成24年度会計監査業務を執行した公認会計士及び補助者の状況は以下のとおりです。

指定社員 業務執行社員 高木 勇三

指定社員 業務執行社員 手塚 眞佐子

継続監査年数につきましては、全員7年以内であるため、記載を省略しております。

補助者 公認会計士 3名

(3) 企業統治の体制を採用する理由

当社は、迅速かつ適正・適法な経営・業務執行を確保する観点から、実効性のあるコーポレート・ガバナンス体制を構築することが重要であるとの認識に基づき、監査役制度が有効に機能すると判断し、同制度を採用しております。また、取締役会については、社外取締役は選任しておりませんが、業務執行の監視に加え、経営の透明性を確保することを目的として、監査役3名のうち2名を社外監査役としております。これらにより、会社の健全で持続的な成長を確保し、社会的信頼に応える良質な企業統治体制を確立できると考え、現在の体制を採用しております。

(4) コーポレート・ガバナンスに関する諸施策の実施状況

内部統制システムの整備の状況

当社は、内部統制の基本方針を下記のとおり定めております。

(a) 取締役・使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

「倫理」、「法令遵守」、「効率性」の3点に根付いた職務の遂行を個々の役職員が日々実践し、受け継いでいくことにより、社会から信頼される経営体制の確立に努める。

内部監査室による内部監査を内部管理規程に基づき実施し、倫理・法令及び社内規程に反する行為の早期確認体制を整える。

(b) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務執行に係る文書、その他重要な情報を法令及び社内規程に基づき適正に保存及び管理する。

(c) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

リスク管理体制の整備を進め、当社を取り巻くリスクを特定したうえで適切なリスク対応を図る。

また、重大なリスクを伴う事態が発生した場合は、代表取締役を本部長とする対策本部を設置し、情報開示責任者及び顧問弁護士等の外部の有識者と連携し迅速な対応を行い、損害を最小限に留める体制整備を行う。

(d) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役の職務権限、会議体の付議基準等を明確化するとともに、意思決定の妥当性を高めるためのプロセス体制を整備する。

取締役会は原則月1回開催し、経営に関する重要事項について審議、議決及び取締役の業務執行状況の監督等を行うほか、必要に応じて臨時取締役会を開催する。

(e) 監査役の職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

監査役がその職務を補助する特定の使用人を置くことを求めた場合には、監査役と協議のうえ合理的な範囲で配置することとする。

(f) 当該使用人の取締役からの独立性に関する事項

前項にともない監査役の職務を補助する特定の使用人を置いた場合には、取締役からの独立性を確保するため、当該使用人の人事考課・異動等については事前に監査役と協議を行い決定することとする。

(g) 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制

監査役が定期的に取り締役または使用人から職務執行の状況について報告を受けることができる体制を整備する。

(h) 監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

代表取締役と監査役は、相互の意思疎通を図るため、定期的な会合をもつほか、監査役が必要と認めた場合に弁護士、会計士等の外部専門家との連携を図る。

弁護士・会計監査人等、その他の第3者の状況

重要な法務的課題及びコンプライアンスにかかる事項については、必要に応じて外部の顧問弁護士からアドバイスを受けております。また、会計監査人より、金融商品取引法に基づく監査のほか、適時指導を受けております。

内部監査及び監査役監査の状況

社長直属の内部監査室に専任担当者1名を置き、内部監査を実施しております。法令、社内諸規程の遵守状況の確認及び経営効率の向上を主な目的としており、全部署を対象に内部監査を計画的に実施しております。

監査役監査については、「(2)企業統治の体制の概要」で記載のとおりで構成される監査役会が定めた監査の方針、業務の分担等に従い、各監査役が、取締役会及びその他の重要な会議に出席し、取締役等からの聴取を行うとともに、当社及び子会社の業務並びに財産の状況の調査等により、法令及び定款への適合性の観点から取締役の職務の執行を監査しております。

なお、内部監査室、監査役及び会計監査人は、密接な情報交換を行っており、監査体制の充実を図っております。

社外取締役及び社外監査役

(a) 社外取締役及び社外監査役の独立性

当社では、社外取締役及び社外監査役の選任にあたっては、会社法の要件を充足するほか、独立性基準に準じ、当社との間で大株主または主要な取引先等としての利害関係を持っていないことを要件としております。また社外取締役及び社外監査役の役割が、一般株主の代表として企業価値の向上を追及するほか、業務執行に直接携わらない立場から、全体的かつ客観的に経営判断の妥当性を監督することである以上、様々な分野に関する豊富な知識、経験を持ち、社会・経済動向等に関する高い見識を有する方々に参加していただいております。

(b) 当社の企業統治において果たす機能及び役割並びに選任状況に関する考え方

当社は、現在、社外取締役は選任しておりませんが、社外監査役を2名を選任しております。当社と兼職先であるそれぞれの会社等との間には特別な利害関係はありません。社外監査役は、上記のとおり独立した立場からの客観的かつ中立的な視点に基づき監査を遂行するとともに、監査役がそれぞれの専門分野に関する豊富な知識、経験を持ち寄ることで、多様な視点に基づいた客観的な監査を実施しており、経営の健全性と透明性が十分に確保されております。

(c) 内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

「内部監査及び監査役監査の状況」に記載のとおりであります。

役員報酬等

(a) 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額(千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる役員の員数(人)
		基本報酬	ストックオプション	賞与	
取締役 (社外取締役を除く。)	37,800	37,800	-	-	5
監査役 (社外監査役を除く。)	666	666	-	-	1
社外役員	4,666	4,666	-	-	2

(注) 1. 取締役の報酬限度額は、平成15年3月31日開催の第13期定時株主総会において年額100,000千円以内(ただし、使用人分給与は含まない。)と定められております。

2. 監査役の報酬限度額は、平成15年3月31日開催の第13期定時株主総会において年額30,000千円以内と定められております。

(b) 報酬等の総額が1億円以上である者の報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上ある役員は存在しておりません。

(c) 使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

使用人兼務役員3名に使用人分給与として26,732千円を支給しております。

(d) 使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なものの役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

方針は定めておりませんが、個別の役員報酬等については、上記の総額の範囲内で取締役会で決定しております。

株式の保有状況

- (a) 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額
9 銘柄 116,603千円
- (b) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
前事業年度
保有目的が純投資目的以外の目的の上場投資株式は保有しておりません。

当事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
Infoblox, Inc.	24,331	37,855	取引関係の発展
Ruckus Wireless, Inc.	20,377	39,748	取引関係の発展

責任限定契約の内容の概要

当社と社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、責任限定契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

取締役の定数

当社の取締役は8名以内とする旨定款に定めております。

自己株式の取得の決定機関

当社は、会社法第165条第2項の規定により、株主総会の決議によらず取締役会の決議をもって、自己株式の取得をすることができる旨定款に定めております。これは自己株式の取得を取締役会の権限とすることにより、経済情勢等の変化に対して機動的に自己株式の取得を行うことを目的とするものであります。

中間配当金

当社は、会社法第454条第5項の規定に基づき、取締役会の決議によって、毎年6月30日の株主名簿に記録された株主又は登録株式質権者に対し、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

取締役及び監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって同法第423条第1項の行為に関する取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）の責任を法令の限度において免除することができる旨定款に定めております。これは、取締役及び監査役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	16,000	-	16,000	-
連結子会社	-	-	-	-
計	16,000	-	16,000	-

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査日数等を勘案し、会計監査人との協議により決定しております。

第5【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成24年1月1日から平成24年12月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成24年1月1日から平成24年12月31日まで）の財務諸表について監査法人五大による監査を受けております。

なお、当社の監査人は次のとおり異動しております。

前々連結会計年度及び前々事業年度 有限責任監査法人トーマツ
前連結会計年度及び前事業年度 監査法人五大

臨時報告書に記載した事項は次のとおりであります。

- (1) 異動に係る監査公認会計士等の名称

有限責任監査法人トーマツ
監査法人五大

- (2) 異動の年月日 平成23年3月30日

- (3) 監査公認会計士等であったものが監査公認会計士等でなくなった場合

異動監査公認会計士等が直近において監査公認会計士等となった年月日 平成20年3月28日

異動監査公認会計士等が作成した監査報告書又は内部統制監査報告書における内容等

該当事項はありません。

異動の決定又は異動に至った理由及び経緯

当社の会計監査人であります有限責任監査法人トーマツは、平成23年3月30日開催予定の第21期定時株主総会終結の時をもって任期満了により退任となりますので、新たに監査法人五大を会計監査人として選任するものであります。

上記の理由又は経緯に対する監査報告書又は内部統制監査報告書等の記載事項に係る異動監査公認会計士等の意見、特段の意見はない旨の回答を得ております。

異動監査公認会計士等が上記の意見を表明しない場合における理由等

該当事項はありません。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、情報の収集に努めております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	87,011	248,406
受取手形及び売掛金	334,166	436,321
商品	113,587	106,595
仕掛品	135	1,725
原材料及び貯蔵品	32	28
前渡金	68,839	47,550
繰延税金資産	-	40,280
その他	24,258	21,578
貸倒引当金	2,057	20
流動資産合計	625,974	902,465
固定資産		
有形固定資産		
建物	34,315	34,595
減価償却累計額	4,008	8,226
建物(純額)	30,306	26,368
車両運搬具	4,132	2,866
減価償却累計額	3,430	2,388
車両運搬具(純額)	701	477
工具、器具及び備品	649,902	659,784
減価償却累計額	551,519	581,226
工具、器具及び備品(純額)	98,382	78,558
その他	3,210	3,210
減価償却累計額	909	1,551
その他(純額)	2,300	1,658
有形固定資産合計	131,691	107,063
無形固定資産		
のれん	333,863	222,491
その他	26,134	15,698
無形固定資産合計	359,997	238,190
投資その他の資産		
投資有価証券	127,967	147,912
長期貸付金	-	57,000
その他	51,467	54,873
貸倒引当金	8,400	38,928
投資その他の資産合計	171,034	220,857
固定資産合計	662,724	566,111
資産合計	1,288,698	1,468,576

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	58,809	146,663
短期借入金	266,000	¹ 252,000
1年内返済予定の長期借入金	150,258	84,858
前受金	321,936	324,059
未払金	² 95,254	94,677
未払法人税等	2,806	2,263
その他	32,963	46,491
流動負債合計	928,028	951,012
固定負債		
長期借入金	209,832	193,518
繰延税金負債	2,402	29,969
資産除去債務	6,895	7,017
その他	1,741	1,067
固定負債合計	220,871	231,572
負債合計	1,148,899	1,182,584
純資産の部		
株主資本		
資本金	369,981	369,981
資本剰余金	386,231	386,231
利益剰余金	622,700	512,740
自己株式	7,433	7,433
株主資本合計	126,079	236,038
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	46	49,953
その他の包括利益累計額合計	46	49,953
少数株主持分	13,766	-
純資産合計	139,799	285,991
負債純資産合計	1,288,698	1,468,576

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)
売上高	2,470,160	2,664,521
売上原価	1,304,623 ₁	1,511,967 ₁
売上総利益	1,165,536	1,152,554
販売費及び一般管理費	1,036,908 _{2, 3}	1,028,963 ₂
営業利益	128,628	123,590
営業外収益		
受取利息	506	1,195
受取配当金	4	3
固定資産賃貸料	4,688	10,697
償却債権取立益	-	3,295
その他	1,170	3,815
営業外収益合計	6,369	19,006
営業外費用		
支払利息	14,454	11,470
減価償却費	8,058	-
為替差損	2,711	5,161
貸倒引当金繰入額	-	18
その他	1,726	2,441
営業外費用合計	26,950	19,092
経常利益	108,047	123,504
特別利益		
固定資産売却益	369 ₄	10,198 ₄
投資有価証券売却益	12	15,973
特別利益合計	381	26,171
特別損失		
固定資産売却損	-	298 ₅
固定資産除却損	12,044 ₆	614 ₆
投資有価証券評価損	1,346	57,539
前期損益修正損	12,968	-
減損損失	33,459 ₇	-
貸倒引当金繰入額	896 ₈	28,500 ₈
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	14,790	-
その他	3,719	5,412
特別損失合計	79,225	92,365
税金等調整前当期純利益	29,202	57,310
法人税、住民税及び事業税	3,978	1,985
法人税等調整額	5,452	41,167
法人税等合計	9,430	39,182
少数株主損益調整前当期純利益	19,771	96,492
少数株主利益又は少数株主損失()	1,266	13,466
当期純利益	18,504	109,959

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	19,771	96,492
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	10,522	49,999
その他の包括利益合計	10,522	49,999
包括利益	30,294	146,492
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	29,027	159,958
少数株主に係る包括利益	1,266	13,466

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	369,981	369,981
当期末残高	369,981	369,981
資本剰余金		
当期首残高	386,231	386,231
当期末残高	386,231	386,231
利益剰余金		
当期首残高	641,204	622,700
当期変動額		
当期純利益	18,504	109,959
当期変動額合計	18,504	109,959
当期末残高	622,700	512,740
自己株式		
当期首残高	7,433	7,433
当期末残高	7,433	7,433
株主資本合計		
当期首残高	107,574	126,079
当期変動額		
当期純利益	18,504	109,959
当期変動額合計	18,504	109,959
当期末残高	126,079	236,038
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	10,568	46
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	10,522	49,999
当期変動額合計	10,522	49,999
当期末残高	46	49,953
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	10,568	46
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	10,522	49,999
当期変動額合計	10,522	49,999
当期末残高	46	49,953
少数株主持分		
当期首残高	12,499	13,766
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,266	13,766
当期変動額合計	1,266	13,766
当期末残高	13,766	-

	前連結会計年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
純資産合計		
当期首残高	109,505	139,799
当期変動額		
当期純利益	18,504	109,959
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	11,789	36,233
当期変動額合計	30,294	146,192
当期末残高	139,799	285,991

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	29,202	57,310
減価償却費	95,672	77,546
のれん償却額	111,119	111,372
貸倒引当金の増減額（ は減少）	122,593	28,491
受取利息及び受取配当金	510	1,199
支払利息	14,454	11,470
支払保証料	957	1,643
為替差損益（ は益）	387	2,995
有形固定資産売却損益（ は益）	369	9,899
有形固定資産除却損	12,044	614
投資有価証券評価損	1,346	57,539
投資有価証券売却損益（ は益）	57	15,973
減損損失	33,459	-
前期損益修正損益（ は益）	12,968	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	14,790	-
売上債権の増減額（ は増加）	183,319	102,155
たな卸資産の増減額（ は増加）	69,905	4,876
前渡金の増減額（ は増加）	6,387	21,288
破産更生債権等の増減額（ は増加）	42,150	-
固定化営業債権の増減額（ は増加）	56,998	-
その他の流動資産の増減額（ は増加）	44,627	6,231
その他の固定資産の増減額（ は増加）	1,500	450
仕入債務の増減額（ は減少）	184,810	87,853
未払金の増減額（ は減少）	15,771	31,567
前受金の増減額（ は減少）	52,937	2,122
その他の流動負債の増減額（ は減少）	7,788	1,314
その他	11,712	12,892
小計	471,501	369,901
利息及び配当金の受取額	998	808
利息及び保証料の支払額	14,970	8,887
法人税等の支払額	35,470	2,732
法人税等の還付額	-	8,299
営業活動によるキャッシュ・フロー	422,058	367,389

	前連結会計年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	-	1,000
投資有価証券の売却による収入	19,741	16,138
有形固定資産の取得による支出	65,797	46,985
有形固定資産の除却による支出	1,167	-
有形固定資産の売却による収入	-	315
無形固定資産の取得による支出	2,348	283
貸付けによる支出	-	57,000
営業譲受による支出	188,748	28,035
その他	11,783	3,557
投資活動によるキャッシュ・フロー	226,536	113,293
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	193,800	14,000
長期借入れによる収入	95,000	190,000
長期借入金の返済による支出	144,416	271,714
配当金の支払額	363	9
その他	674	974
財務活動によるキャッシュ・フロー	244,253	96,697
現金及び現金同等物に係る換算差額	387	2,995
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	48,344	160,394
現金及び現金同等物の期首残高	135,356	87,011
現金及び現金同等物の期末残高	1 87,011	1 247,406

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1. 連結の範囲に関する事項

子会社は全て連結しております。

連結子会社の数 3社

連結子会社の名称

(株)セーブルネットワークス

(株)イノコス

(株)パックス

なお、(株)セーブルネットワークスは、平成24年11月8日に解散し、平成25年3月4日に東京地方裁判所より特別清算終結決定を受けておりますが、連結決算日現在清算手続中であるため企業集団の中に入れておりません。

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち(株)セーブルネットワークスの決算日は12月31日でありましたが、平成24年11月8日付で解散したため、決算日は11月8日になっております。

連結財務諸表の作成にあたり、同社については、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく同社の財務諸表を使用しております。

なお、その他の連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

たな卸資産

商品

移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を採用しております。

仕掛品、原材料及び貯蔵品

個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

定率法（ただし、建物（建物附属設備を除く）については定額法）を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建 物 8年～22年

工具、器具及び備品 5年

車 両 運 搬 具 2年～4年

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく償却をしております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年12月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

原則として、繰延ヘッジ処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

(ヘッジ手段)

金利スワップ、為替予約

(ヘッジ対象)

借入金、買掛金

ヘッジ方針

将来における金利変動リスク、為替相場の為替変動によるリスクの回避を目的として行っております。

ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、5年間の定額法により償却を行っております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

【会計方針の変更】

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

法人税法の改正(経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律(平成23年12月2日 法律第114号)及び法人税法施行令の一部を改正する政令(平成23年12月2日 政令第379号))に伴い、平成24年4月1日以降に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。これによる損益への影響は軽微であります。

【表示方法の変更】

当社グループは、ネットワーク関連商品の開発、販売、サポートとサービスを中心とした事業を行っておりますが、こうした中で近年、サポート・サービス等については営業活動に付随して行われる状況が増加してきたため、従来はサポート・サービス業務に係る費用を「売上原価」に計上しておりましたが、当連結会計年度よりこれらの費用のうち労務費、旅費等、人員に紐づく費目については「販売費及び一般管理費」に計上する方法に変更しております。

この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結損益計算書の組替えを行っており、この結果、売上原価に含めて表示していた91,177千円は、販売費及び一般管理費として組替えております。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

1 当座貸越契約について

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行1行と当座貸越契約を締結しております。この契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
当座貸越限度額の総額	100,000千円	100,000千円
借入実行残高	-	15,000
差引額	100,000	85,000

2 連結子会社である㈱イノコスにおいて、ブロードアース㈱よりDTV事業を譲り受けたことに伴い発生した未払い額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
未払金	28,094千円	

(連結損益計算書関係)

1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下げ後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)
	37,444千円	42,927千円

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)
給料手当	389,508千円	415,490千円
のれん償却	111,119	111,372

3 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費

	前連結会計年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)
	6,800千円	

4 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)
投資固定資産	369千円	投資固定資産 車両運搬具 10,175千円 22

5 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)
		車両運搬具 298千円

6 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)
建物	9,172千円	工具、器具及び備品 614千円
工具、器具及び備品	2,450	
その他	421	

7 減損損失

前連結会計年度(自平成23年1月1日至平成23年12月31日)

当社グループは、以下のとおり減損損失を計上いたしました。

(1) 減損損失を認識した資産及び減損損失の金額

種類	用途	場所	金額(千円)
投資固定資産	賃貸用設備	東京都 他	33,459

(2) 減損損失の認識に至った経緯

投資固定資産については、収益性が低下していることから減損損失を認識しております。

(3) 資産のグルーピングの方法

当社グループは、事業用資産、賃貸資産および遊休資産にグルーピングしております。

(4) 回収可能価額の算定方法

回収可能価額は、投資固定資産については、使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローが見込めないと判断し、ゼロと評価しております。

当連結会計年度(自平成24年1月1日至平成24年12月31日)

該当事項はありません。

8 貸倒引当金繰入額の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)
未収入金に対する引当金繰入	896千円	長期貸付金に対する引当金繰入 28,500千円

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自平成24年1月1日至平成24年12月31日)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金：

当期発生額	77,603千円
組替調整額	46
税効果調整前	77,649
税効果額	27,650
その他有価証券評価差額金	49,999
その他の包括利益合計	49,999

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成23年1月1日至平成23年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(株)	当連結会計年度増 加株式数(株)	当連結会計年度減 少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	9,521	-	-	9,521
合計	9,521	-	-	9,521
自己株式				
普通株式	84	-	-	84
合計	84	-	-	84

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成24年1月1日至平成24年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(株)	当連結会計年度増 加株式数(株)	当連結会計年度減 少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	9,521	-	-	9,521
合計	9,521	-	-	9,521
自己株式				
普通株式	84	-	-	84
合計	84	-	-	84

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

該当事項はありません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	(自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
現金及び預金勘定	87,011千円	248,406千円
預入期間が3か月を超える定期預金	-	1,000
現金及び現金同等物	87,011	247,406

(リース取引関係)

(借主側)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

複合機(工具、器具及び備品)であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年12月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、及び期末残高相当額

(単位：千円)

	前連結会計年度(平成23年12月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	10,327	7,329	2,998
合計	10,327	7,329	2,998

(単位：千円)

	当連結会計年度(平成24年12月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	10,327	9,261	1,065
合計	10,327	9,261	1,065

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	2,017	1,138
1年超	1,138	-
合計	3,155	1,138

(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)
支払リース料	3,022	2,084
減価償却費相当額	2,831	1,932
支払利息相当額	132	66

(4) 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

利息相当額の算定方法

支払利息相当額は利息法に基づくものであります。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については一時的な余資を安全性の高い金融資産で運用しております。また、資金調達については、主に銀行等金融機関からの借入により調達しております。デリバティブは為替変動リスク、金利変動リスクを回避するために利用し、投機的な取引は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

金融資産の主なものには、現金及び預金、受取手形及び売掛金、投資有価証券、長期貸付金があります。預金については、主に普通預金であり、預入先の信用リスクに晒されておりますが、預入先は信用度の高い銀行であります。受取手形及び売掛金並びに取引先に対する長期貸付金については、取引先の信用リスクに晒されておりますが、取引先ごとの期日及び残高の管理を行うとともに、取引先の信用状況の把握に努め財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式及び社債であり、信用リスク及び市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に発行体の財務状況及び時価を把握し、また、取引先との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

金融負債の主なものには、買掛金、未払金、短期借入金、長期借入金があります。買掛金及び未払金については、そのほとんどが2ヶ月以内の支払期日であります。その一部には、外貨建債務があり、為替変動リスクに晒されておりますが、状況に応じて為替予約を利用して当該リスクをヘッジしております。

借入金の用途は当社及び当社子会社の運転資金及び各種投資資金であります。

デリバティブ取引は、外貨建債務に係る為替変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした為替予約取引であります。

なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の連結財務諸表の作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (5) 重要なヘッジ会計の方法」に記載しております。

また、買掛金、未払金及び借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、月次に資金繰計画を作成するなどの方法により管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

前連結会計年度（平成23年12月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	87,011	87,011	-
(2) 受取手形及び売掛金	334,166	334,166	-
資産計	421,177	421,177	-
(1) 買掛金	58,809	58,809	-
(2) 短期借入金	266,000	266,000	-
(3) 未払金	95,254	95,254	-
(4) 未払法人税等	2,806	2,806	-
(5) 長期借入金()	360,090	362,826	2,736
負債計	782,959	785,695	2,736
デリバティブ取引	-	-	-

長期借入金には、1年内返済予定の長期借入金150,258千円が含まれております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

負債

(1) 買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払金、(4) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

変動金利による長期借入金の一部は、金利スワップの特例処理の対象とされており（下記「デリバティブ取引」参照）、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積もられる利率で割り引いて算定する方法によっております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額(千円)
非上場株式等	127,967

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	87,011	-	-	-
受取手形及び売掛金	334,166	-	-	-
投資有価証券 その他有価証券(社債)	-	31,000	-	-
合計	421,177	31,000	-	-

当連結会計年度(平成24年12月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	248,406	248,406	-
(2) 受取手形及び売掛金	436,321	436,321	-
(3) 投資有価証券	77,603	77,603	-
(4) 長期貸付金 貸倒引当金(1)	57,000 28,500		
	28,500	28,500	-
資産計	790,831	790,831	-
(1) 買掛金	146,663	146,663	-
(2) 短期借入金	252,000	252,000	-
(3) 未払金	94,677	94,677	-
(4) 未払法人税等	2,263	2,263	-
(5) 長期借入金(2)	278,376	278,595	219
負債計	773,979	774,198	219
デリバティブ取引	-	-	-

1 長期貸付金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

2 長期借入金には、1年内返済予定の長期借入金84,858千円が含まれております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

(4) 長期貸付金

長期貸付金については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を貸倒引当金設定しているため、時価は決算日における連結貸借対照表価額から貸倒引当金を控除した額と近似していることから当該金額によっております。

負債

(1)買掛金、(2)短期借入金、(3)未払金、(4)未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5)長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額(千円)
非上場株式等	70,308

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3)投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	248,406	-	-	-
受取手形及び売掛金	436,321	-	-	-
投資有価証券	31,000	-	-	-
その他有価証券(社債)()				
合計	715,727	-	-	-

株式に転換するかどうか未定のため、連結貸借対照表上「投資その他の資産」の「投資有価証券」に含めて表示しております。

4. 長期借入金の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「借入金等明細表」をご参照下さい。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成23年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(平成24年12月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	77,603	0	77,603
	小計	77,603	0	77,603
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		77,603	0	77,603

(注)非上場株式等(連結貸借対照表計上額 70,308千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自平成23年1月1日至平成23年12月31日)

種類	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
株式	211	12	70
合計	211	12	70

当連結会計年度(自平成24年1月1日至平成24年12月31日)

種類	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
株式	16,138	15,973	-
合計	16,138	15,973	-

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度(自平成23年1月1日至平成23年12月31日)

前連結会計年度において、その他有価証券(時価のない株式)について、1,346千円減損処理を行っております。

当連結会計年度(自平成24年1月1日至平成24年12月31日)

当連結会計年度において、その他有価証券(時価のない株式)について、57,524千円減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、時価のある株式については、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。時価のない株式については、実質価額が取得価額に比べ50%以上下落した場合には、回復可能性が十分な根拠によって裏付けられる場合を除き、減損処理をしております。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

前連結会計年度(平成23年12月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超(千円)	時価 (千円)
金利スワップの 特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	33,352	-	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(平成24年12月31日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、確定拠出型退職給付制度として前払退職金制度及び確定拠出型年金制度を採用しております。

なお、連結子会社については、退職給付制度はありません。

2. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)
確定拠出型退職給付制度に係る費用(千円)	6,230	7,869

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	平成15年12月 ストック・オプション	平成16年12月 ストック・オプション	平成17年2月 ストック・オプション	平成17年6月 ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 3名 当社監査役 1名 当社従業員 37名	当社取締役 3名 当社監査役 1名 当社従業員 24名	当社取締役 1名 社外協力者 2名	当社取締役 4名 当社監査役 2名 当社従業員 40名 社外協力者 4名
ストック・オプション数 (注) 1	普通株式 200株 (注) 2	普通株式 180株 (注) 2	普通株式 20株 (注) 2	普通株式 300株 (注) 2
付与日	平成15年12月15日	平成16年12月30日	平成17年2月10日	平成17年6月30日
権利確定条件	権利確定条件は付されておられません。なお、被付与者が取締役、監査役、従業員の地位を失った場合は原則として権利行使をすることはできません。その他、細目については発行要項に定めておられます。	権利確定条件は付されておられません。なお、被付与者が取締役、監査役、従業員の地位を失った場合は原則として権利行使をすることはできません。その他、細目については発行要項に定めておられます。	権利確定条件は付されておられません。なお、被付与者が取締役、社外協力者の地位を失った場合は原則として権利行使をすることはできません。その他、細目については発行要項に定めておられます。	権利確定条件は付されておられません。なお、被付与者が取締役、監査役、従業員または社外協力者の地位を失った場合は原則として権利行使をすることはできません。その他、細目については発行要項に定めておられます。
対象勤務期間	定めておられません。	定めておられません。	定めておられません。	定めておられません。
権利行使期間	自 平成17年4月1日 至 平成25年3月31日	自 平成18年4月1日 至 平成26年3月31日	自 平成18年4月1日 至 平成27年3月31日	自 平成17年7月1日 至 平成27年3月31日

	平成18年4月 ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 5名 当社監査役 2名 当社従業員 61名
ストック・オプション数 (注) 1	普通株式 200株
付与日	平成18年4月28日
権利確定条件	権利確定条件は付されておられません。なお、被付与者が取締役、監査役、従業員の地位を失った場合は原則として権利行使をすることはできません。その他、細目については発行要項に定めておられます。
対象勤務期間	定めておられません。
権利行使期間	自 平成18年6月1日 至 平成28年3月31日

(注) 1. 株式数に換算して記載しております。

2. 平成17年8月30日付をもって普通株式1株を2株に分割しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	平成15年12月 ストック・オプション	平成16年12月 ストック・オプション	平成17年2月 ストック・オプション	平成17年6月 ストック・オプション
権利確定前(株)				
前連結会計年度末	-	-	-	-
付与	-	-	-	-
失効	-	-	-	-
権利確定	-	-	-	-
未確定残	-	-	-	-
権利確定後(株)				
前連結会計年度末	24	42	10	176
権利確定	-	-	-	-
権利行使	-	-	-	-
失効	-	-	-	-
未行使残	24	42	10	176

	平成18年4月 ストック・オプション
権利確定前(株)	
前連結会計年度末	-
付与	-
失効	-
権利確定	-
未確定残	-
権利確定後(株)	
前連結会計年度末	85
権利確定	-
権利行使	-
失効	1
未行使残	84

単価情報

	平成15年12月 ストック・オプション	平成16年12月 ストック・オプション	平成17年 2月 ストック・オプション	平成17年 6月 ストック・オプション
権利行使価格(円)	200,000	200,000	200,000	202,000
行使時平均株価(円)	-	-	-	-

	平成18年 4月 ストック・オプション
権利行使価格(円)	985,521
行使時平均株価(円)	-

2. ストック・オプションの権利確定数の見積り方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金繰入超過額	26,147千円	21,412千円
商品評価損	33,356	16,311
投資有価証券評価損	109,820	20,657
減損損失	22,809	3,347
繰越欠損金	149,343	252,924
その他	6,958	3,103
繰延税金資産小計	348,435	317,756
評価性引当額	348,435	277,476
繰延税金資産合計	-	40,280
繰延税金負債		
未収事業税	805	-
資産除去債務計上に伴う繰延税金負債	2,402	2,319
その他有価証券評価差額金	-	27,650
繰延税金負債合計	3,207	29,969
繰延税金負債の純額	3,207	-
繰延税金資産の純額	-	10,310

(注) 前連結会計年度における繰延税金負債の純額及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	- 千円	40,280千円
固定資産 - 繰延税金資産	-	-
流動負債 - その他	805	-
固定負債 - 繰延税金負債	2,402	29,969

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
法定実効税率	40.68%	40.68%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	8.51	2.96
住民税均等割額	5.67	2.73
評価性引当額の減少額	34.61	123.84
その他	12.04	9.10
税効果会計適用後の法人税等の負担率	32.29	68.37

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

事業所の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から22年と見積り、割引率は1.78%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
期首残高(注)	17,356千円	6,895千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	6,874	-
時の経過による調整額	20	122
資産除去債務の履行による減少額	17,356	-
その他増減額(は減少)	-	-
期末残高	6,895	7,017

(注) 前連結会計年度の「期首残高」は「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用したことによる期首時点における残高であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前連結会計年度(自平成23年1月1日至平成23年12月31日)及び当連結会計年度(自平成24年1月1日至平成24年12月31日)

当社グループは、ネットワーク関連商品の輸入、開発、販売、サポートとサービス及びネットワークインテグレーションを主要な事業内容としており、単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自平成23年1月1日至平成23年12月31日)及び当連結会計年度(自平成24年1月1日至平成24年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

当社グループは、ネットワーク関連商品の輸入、開発、販売、サポートとサービス及びネットワークインテグレーションを主要な事業内容としており、この事業の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自平成23年1月1日至平成23年12月31日)及び当連結会計年度(自平成24年1月1日至平成24年12月31日)

当社グループは、ネットワーク関連商品の輸入、開発、販売、サポートとサービス及びネットワークインテグレーションを主要な事業内容としており、単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自平成23年1月1日至平成23年12月31日)及び当連結会計年度(自平成24年1月1日至平成24年12月31日)

当社グループは、ネットワーク関連商品の輸入、開発、販売、サポートとサービス及びネットワークインテグレーションを主要な事業内容としており、単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自平成23年1月1日至平成23年12月31日)及び当連結会計年度(自平成24年1月1日至平成24年12月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る)等

前連結会計年度(自平成23年1月1日至平成23年12月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
役員及び主要株主(個人)	渡部 進	-	-	当社代表取締役	(被所有) 直接 39.2% 間接 15.5%	債務被保証 担保の提供	借入金に対する被保証担保の提供	280,864	-	-
							担保の提供の受入(注)2	20,000	-	-
子会社役員	猪俣 誠基	-	-	子会社代表取締役	-	債務被保証	借入金に対する被保証(注)3	43,000	-	-

(注)1. 取引金額には消費税等は含まれておりません。

2. 当社の銀行借入に対して、当社代表取締役 渡部 進より債務保証を受けております。

なお、保証料の支払は行っておりません。

3. (株)イノコスの銀行借入に対して、同社代表取締役 猪俣 誠基より債務保証を受けております。

なお、保証料の支払は行っておりません。

当連結会計年度(自平成24年1月1日至平成24年12月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
役員及び主要株主(個人)	渡部 進	-	-	当社代表取締役	(被所有) 直接 39.3% 間接 15.5%	債務被保証 担保の提供	借入金に対する被保証担保の提供	46,672	-	-
							担保の提供の受入(注)2	10,000	-	-
子会社役員	猪俣 誠基	-	-	子会社代表取締役	-	債務被保証	借入金に対する被保証(注)3	105,032	-	-

(注)1. 取引金額には消費税等は含まれておりません。

2. 当社の銀行借入に対して、当社代表取締役 渡部 進より債務保証を受けております。

なお、保証料の支払は行っておりません。

3. (株)イノコスの銀行借入に対して、同社代表取締役 猪俣 誠基より債務保証を受けております。

なお、保証料の支払は行っておりません。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)		当連結会計年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)	
1株当たり純資産額	13,355円18銭	1株当たり純資産額	30,305円37銭
1株当たり当期純利益金額	1,960円88銭	1株当たり当期純利益金額	11,651円94銭
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額	-	潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額	-
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。	

(注) 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(千円)	18,504	109,959
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	18,504	109,959
普通株式の期中平均株式数(株)	9,437	9,437
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	新株予約権5種類(新株予約権の数211個)。	新株予約権5種類(新株予約権の数210個)。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	266,000	252,000	1.79	-
1年以内に返済予定の長期借入金	150,258	84,858	1.70	-
1年以内に返済予定のリース債務	674	674	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	209,832	193,518	1.71	平成34年3月31日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,741	1,067	-	平成27年7月31日
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	628,505	532,117	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	76,992	59,172	21,490	8,160
リース債務	674	393	-	-

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	608,645	1,300,297	1,923,959	2,664,521
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(千円)	43,897	96,355	93,467	57,310
四半期(当期)純利益金額 (千円)	43,314	70,197	89,420	109,959
1株当たり四半期(当期)純 利益金額(円)	4,589.87	7,438.55	9,475.47	11,651.94

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	4,589.87	2,848.69	2,036.92	2,176.47

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当事業年度 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	75,701	168,616
受取手形	2,454	1,598
売掛金	272,516	394,064
商品	69,002	106,093
仕掛品	135	1,725
原材料及び貯蔵品	32	28
前渡金	62,081	39,531
前払費用	10,516	14,007
関係会社短期貸付金	259,229	223,309
未収入金	23,446	12,805
繰延税金資産	-	40,280
その他	8,595	4,458
貸倒引当金	2,171	117
流動資産合計	781,539	1,006,399
固定資産		
有形固定資産		
建物	33,345	33,709
減価償却累計額	3,599	7,750
建物（純額）	29,746	25,958
車両運搬具	4,132	2,866
減価償却累計額	3,430	2,388
車両運搬具（純額）	701	477
工具、器具及び備品	594,400	620,232
減価償却累計額	501,650	544,484
工具、器具及び備品（純額）	92,749	75,747
リース資産	3,210	3,210
減価償却累計額	909	1,551
リース資産（純額）	2,300	1,658
有形固定資産合計	125,497	103,842
無形固定資産		
ソフトウェア	20,430	11,643
その他	800	800
無形固定資産合計	21,230	12,443
投資その他の資産		
投資有価証券	90,141	147,603
関係会社株式	30,000	30,000
出資金	30	30
関係会社長期貸付金	612,876	168,114
長期前払費用	5,195	1,316
敷金及び保証金	33,839	33,729
その他	9,430	17,806
貸倒引当金	480,179	146,939
投資その他の資産合計	301,333	251,660
固定資産合計	448,061	367,947
資産合計	1,229,601	1,374,346

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当事業年度 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	49,327	137,555
短期借入金	266,000	222,000
1年内返済予定の長期借入金	142,290	68,880
リース債務	674	674
未払金	63,550	92,847
未払費用	-	673
未払法人税等	2,677	2,117
未払消費税等	3,581	19,327
前受金	295,399	298,392
預り金	12,569	15,427
その他	215	-
流動負債合計	836,287	857,894
固定負債		
長期借入金	174,800	134,464
リース債務	1,741	1,067
繰延税金負債	2,402	29,969
資産除去債務	6,895	7,017
固定負債合計	185,839	172,518
負債合計	1,022,126	1,030,413
純資産の部		
株主資本		
資本金	369,981	369,981
資本剰余金		
資本準備金	386,231	386,231
資本剰余金合計	386,231	386,231
利益剰余金		
利益準備金	2,855	2,855
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	544,136	457,654
利益剰余金合計	541,280	454,799
自己株式	7,433	7,433
株主資本合計	207,498	293,980
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	22	49,953
評価・換算差額等合計	22	49,953
純資産合計	207,475	343,933
負債純資産合計	1,229,601	1,374,346

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
売上高		
ネットワークソリューション売上高	1,172,958	1,410,066
ネットワークサービス売上高	780,419	747,388
売上高合計	1,953,378	2,157,454
売上原価		
商品期首たな卸高	123,548	69,002
ネットワークサービス原価	154,374	198,456
当期商品仕入高	897,928	1,091,739
合計	1,175,851	1,359,198
商品期末たな卸高	92,138	119,725
商品評価損	22,656	13,632
その他原価	479	-
他勘定振替高	² 8,669	² 686
商品売上原価	1,098,180	1,252,418
売上総利益	855,197	905,036
販売費及び一般管理費	^{3, 4} 715,810	³ 753,549
営業利益	139,387	151,486
営業外収益		
受取利息	¹ 7,707	¹ 4,984
有価証券利息	484	1,167
受取配当金	4	1,201
固定資産賃貸料	4,688	10,697
業務受託料	¹ 7,710	¹ 6,960
償却債権取立益	-	3,295
その他	¹ 3,048	3,577
営業外収益合計	23,643	31,883
営業外費用		
支払利息	14,118	10,223
為替差損	2,060	5,671
減価償却費	8,058	-
その他	1,624	2,114
営業外費用合計	25,861	18,009
経常利益	137,168	165,359

	前事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
特別利益		
投資有価証券売却益	12	15,973
固定資産売却益	5 369	5 10,198
その他	-	499
特別利益合計	381	26,671
特別損失		
固定資産売却損	-	6 298
固定資産除却損	7 12,044	7 614
投資有価証券評価損	1,346	19,999
貸倒損失	-	10 502
減損損失	8 33,459	-
貸倒引当金繰入額	9 16,114	9 123,012
子会社株式評価損	1,499	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	14,790	-
その他	3,719	-
特別損失合計	82,974	144,427
税引前当期純利益	54,575	47,603
法人税、住民税及び事業税	1,240	1,484
法人税等調整額	2,402	40,362
法人税等合計	3,642	38,878
当期純利益	50,933	86,481

【ネットワークサービス原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)		当事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
経費	1	154,118	100.0	200,046	100.0
ネットワークサービス費用		154,118	100.0	200,046	100.0
期首仕掛品たな卸高		391		135	
合計		154,509		200,181	
期末仕掛品たな卸高		135		1,725	
ネットワークサービス原価		154,374		198,456	

(注) 1 主な内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度	当事業年度
外注費(千円)	103,358	161,701
減価償却費(千円)	25,031	24,635

【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	369,981	369,981
当期末残高	369,981	369,981
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	386,231	386,231
当期末残高	386,231	386,231
資本剰余金合計		
当期首残高	386,231	386,231
当期末残高	386,231	386,231
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	2,855	2,855
当期末残高	2,855	2,855
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		
当期首残高	595,069	544,136
当期変動額		
当期純利益	50,933	86,481
当期変動額合計	50,933	86,481
当期末残高	544,136	457,654
利益剰余金合計		
当期首残高	592,214	541,280
当期変動額		
当期純利益	50,933	86,481
当期変動額合計	50,933	86,481
当期末残高	541,280	454,799
自己株式		
当期首残高	7,433	7,433
当期末残高	7,433	7,433
株主資本合計		
当期首残高	156,565	207,498
当期変動額		
当期純利益	50,933	86,481
当期変動額合計	50,933	86,481
当期末残高	207,498	293,980

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	70	22
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	48	49,976
当期変動額合計	48	49,976
当期末残高	22	49,953
評価・換算差額等合計		
当期首残高	70	22
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	48	49,976
当期変動額合計	48	49,976
当期末残高	22	49,953
純資産合計		
当期首残高	156,494	207,475
当期変動額		
当期純利益	50,933	86,481
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	48	49,976
当期変動額合計	50,981	136,458
当期末残高	207,475	343,933

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【重要な会計方針】

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

関係会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) たな卸資産

商品

移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を採用しております。

仕掛品、原材料及び貯蔵品

個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法（ただし、建物（建物附属設備を除く）については定額法）を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建 物 8年～22年

工具、器具及び備品 5年

車 両 運 搬 具 2年～4年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく償却をしております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年12月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

4. 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

6. 重要なヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

原則として、繰延ヘッジ処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

(ヘッジ手段)

金利スワップ、為替予約

(ヘッジ対象)

借入金、買掛金

(3) ヘッジ方針

将来における金利変動リスク、為替相場の為替変動によるリスクの回避を目的として行っております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。

7. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

【会計方針の変更】

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

法人税法の改正（経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律（平成23年12月2日 法律第114号）及び法人税法施行令の一部を改正する政令（平成23年12月2日 政令第379号））に伴い、平成24年4月1日以降に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。これによる損益への影響は軽微であります。

【表示方法の変更】

当社は、ネットワーク関連商品の開発、販売、サポートとサービスを中心とした事業を行っておりますが、こうした中で近年、サポート・サービス等については営業活動に付随して行われる状況が増加してきたため、従来はサポート・サービス業務に係る費用を「売上原価」に計上しておりましたが、当事業年度よりこれらの費用のうち労務費、旅費等、人員に紐づく費目については「販売費及び一般管理費」に計上する方法に変更しております。

この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の損益計算書の組替えを行っており、この結果、売上原価に含めて表示していた91,177千円は、販売費及び一般管理費として組替えております。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

1 当座貸越契約について

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行1行と当座貸越契約を締結しております。この契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年12月31日)		当事業年度 (平成24年12月31日)
当座貸越限度額の総額	100,000千円	当座貸越限度額の総額	100,000千円
借入実行残高	-	借入実行残高	15,000
差引額	100,000	差引額	85,000

2 関係会社項目

関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (平成23年12月31日)		当事業年度 (平成24年12月31日)
流動資産			
未収入金	21,211千円		

3 保証債務

次の関係会社について、金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成23年12月31日)		当事業年度 (平成24年12月31日)
㈱イノコス(借入債務)	18,000千円	㈱イノコス(借入債務)	13,200千円

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)		当事業年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)
関係会社からの受取利息	7,682千円	関係会社からの受取利息	4,964千円
関係会社からの業務受託料	7,710	関係会社からの業務受託料	6,960
関係会社からの受取家賃収入	1,545		

2 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)		当事業年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)
固定資産への振替高	7,946千円	固定資産への振替高	529千円
その他	722	その他	156
計	8,669	計	686

3 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度45%、当事業年度55%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度55%、当事業年度45%であります。

主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)		当事業年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)
役員報酬	34,319千円	役員報酬	43,133千円
給料手当	274,295	給料手当	312,402
法定福利費	46,603	法定福利費	58,338
賞与	18,139	賞与	39,424
減価償却費	52,363	減価償却費	46,981
業務委託費	34,968	業務委託費	40,595

4 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費

前事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
	6,800千円

5 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

前事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
投資固定資産	369千円
	投資固定資産 車両運搬具
	10,175千円 22

6 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

前事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
	車両運搬具
	298千円

7 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

前事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
建物	9,172千円
工具、器具及び備品	2,450
その他	421
	工具、器具及び備品
	614千円

8 当社は、以下のとおり減損損失を計上いたしました。

前事業年度（自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日）

(1) 減損損失を認識した資産及び減損損失の金額

種類	用途	場所	金額（千円）
投資固定資産	賃貸用設備	山形県鶴岡市他	33,459

(2) 減損損失の認識に至った経緯

投資固定資産については、収益性が低下していることから減損損失を認識しております。

(3) 資産のグルーピングの方法

当社は、事業用資産、賃貸資産および遊休資産にグルーピングしております。

(4) 回収可能価額の算定方法

回収可能価額は、投資固定資産については、使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローが見込めないと判断し、ゼロと評価しております。

当事業年度（自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日）

該当事項はありません。

9 貸倒引当金繰入額

前事業年度（自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日）

子会社㈱セーブルネットワークスへの貸付金に対し、当期に1,206千円の貸倒引当金繰入額を費用計上しております。また、子会社㈱パックスへの貸付金に対し、当期に13,511千円の貸倒引当金繰入額を費用計上しております。

当事業年度（自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日）

子会社㈱パックスへの貸付金に対し、当期に123,012千円の貸倒引当金繰入額を費用計上しております。

10 貸倒損失

前事業年度（自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日）

子会社㈱セーブルネットワークスへの貸付金に対する貸倒損失502千円を特別損失に計上しております。

（株主資本等変動計算書関係）

前事業年度（自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日）

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数（株）	当事業年度増加株式数（株）	当事業年度減少株式数（株）	当事業年度末株式数（株）
普通株式	84	-	-	84
合計	84	-	-	84

当事業年度（自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日）

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数（株）	当事業年度増加株式数（株）	当事業年度減少株式数（株）	当事業年度末株式数（株）
普通株式	84	-	-	84
合計	84	-	-	84

(リース取引関係)

(借主側)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

複合機(工具、器具及び備品)であります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年12月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：千円)

	前事業年度(平成23年12月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	10,327	7,329	2,998
合計	10,327	7,329	2,998

(単位：千円)

	当事業年度(平成24年12月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	10,327	9,261	1,065
合計	10,327	9,261	1,065

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当事業年度 (平成24年12月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	2,017	1,138
1年超	1,138	-
合計	3,155	1,138

(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

(単位：千円)

	前事業年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)	当事業年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)
支払リース料	3,022	2,084
減価償却費相当額	2,831	1,932
支払利息相当額	132	66

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(5) 利息相当額の算定方法

支払利息相当額は利息法に基づくものであります。

(有価証券関係)

子会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は30,000千円、前事業年度の貸借対照表計上額は30,000千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当事業年度 (平成24年12月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金繰入超過額	147,699千円	56,345千円
商品評価損	23,760	16,292
減損損失	24,058	3,347
繰越欠損金	52,829	193,647
投資有価証券評価損	-	7,126
その他	5,913	3,053
繰延税金資産小計	254,260	279,811
評価性引当額	254,260	239,531
繰延税金資産合計	-	40,280
繰延税金負債		
資産除去債務計上に伴う繰延税金負債	2,402	2,319
その他有価証券評価差額金	-	27,650
繰延税金負債合計	2,402	29,969
繰延税金負債の純額	2,402	-
繰延税金資産の純額	-	10,310

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当事業年度 (平成24年12月31日)
法定実効税率	40.68%	40.68%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.96	1.95
住民税均等割額	2.27	2.61
評価性引当額の減少額	37.03	127.65
その他	1.21	0.74
税効果会計適用後の法人税等の負担率	6.67	81.67

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

事業所の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から22年と見積り、割引率は1.78%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
期首残高(注)	17,356千円	6,895千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	6,874	-
時の経過による調整額	20	122
資産除去債務の履行による減少額	17,356	-
その他増減額(は減少)	-	-
期末残高	6,895	7,017

(注) 前事業年度の「期首残高」は「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用したことによる期首時点における残高であります。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
1株当たり純資産額	21,985円33銭	1株当たり純資産額 36,445円22銭
1株当たり当期純利益金額	5,397円18銭	1株当たり当期純利益金額 9,164円13銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	-	潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 -
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(注) 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(千円)	50,933	86,481
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	50,933	86,481
普通株式の期中平均株式数(株)	9,437	9,437
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	新株予約権5種類(新株予約権の数211個)。	新株予約権5種類(新株予約権の数210個)。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

投資有価証券	その他有価証券	銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)
		Ruckus Wireless, Inc.	20,377	39,748
Infoblox, Inc.	24,331	37,855		
(株)クーレボ	500	30,000		
(株)イノベーションデザイン	90	9,000		
その他5銘柄	-	0		
計		45,298	116,603	

(注) その他5銘柄については、すべて備忘価額であるため、株式数の記載は省略しております。

【債券】

投資有価証券	その他有価証券	銘柄	券面総額(千円)	貸借対照表計上額 (千円)
		(株)イノベーションデザイン第1回転換社債型新株予約権付社債	31,000	31,000
計		31,000	31,000	

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	33,345	364	-	33,709	7,750	4,151	25,958
車両運搬具	4,132	2,866	4,132	2,866	2,388	2,498	477
工具、器具及び備品	594,400	38,868	13,036	620,232	544,484	55,255	75,747
リース資産	3,210	-	-	3,210	1,551	642	1,658
有形固定資産計	635,087	42,098	17,168	660,017	556,175	62,547	103,842
無形固定資産							
ソフトウェア	45,915	283	-	46,198	34,554	9,069	11,643
その他	800	-	-	800	-	-	800
無形固定資産計	46,715	283	-	46,998	34,554	9,069	12,443
長期前払費用	5,195	2,220	6,100	1,316	-	-	1,316

(注) 当期増減額のうち主なものは次のとおりであります。

車両運搬具	増加額(千円)	社用車	2,866
	減少額(千円)	社用車売却	4,132
工具、器具及び備品	増加額(千円)	東京オフィス検証機器及び保守機器	35,866
	減少額(千円)	東京オフィス保守機器廃棄	3,984

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	482,351	123,145	458,191	249	147,057

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、すべて一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

流動資産

イ．現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	46
預金	
当座預金	7,089
普通預金	132,446
外貨普通預金	29,034
小計	168,569
合計	168,616

ロ．受取手形

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
住友電設(株)	1,284
共同印刷(株)	313
合計	1,598

期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成25年 2月	1,284
平成25年 4月	313
合計	1,598

ハ．売掛金

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
ソフトバンクテレコム(株)	59,809
ネットワンシステムズ(株)	46,446
(株)Lee. ネットソリューションズ	36,881
東芝情報システムプロダクツ(株)	25,861
(株)クーレボ	25,116
その他	199,948
合計	394,064

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	当期末残高 (千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	(C) ×100 (A) + (B)	(A) + (D) 2 (B) 366
272,516	1,887,062	1,765,515	394,064	81.8	65

(注) 上記金額には消費税等が含まれております。

二．商品

品目	金額(千円)
情報機器等	106,093
合計	106,093

ホ．仕掛品

品目	金額(千円)
保守サービス仕掛品	1,725
合計	1,725

ヘ．原材料及び貯蔵品

品目	金額(千円)
その他	28
合計	28

ト．関係会社短期貸付金

相手先	金額(千円)
(株)イノコス	223,309
合計	223,309

固定資産

関係会社長期貸付金

相手先	金額(千円)
(株)パックス	168,114
合計	168,114

流動負債

イ．買掛金

相手先	金額(千円)
Aruba Networks International Limited	46,973
Cisco IronPort Systems,LLC	31,743
Fortinet, Inc.	10,457
Array Networks, Inc.	6,317
(株)ジャパン・モバイル・プラットフォーム	5,859
その他	36,202
合計	137,555

ロ．未払金

区分	金額(千円)
賞与	39,424
厚生年金保険料	9,588
家賃関係	7,060
健康保険料	5,992
監査報酬	5,600
その他	25,181
合計	92,847

ハ．短期借入金

相手先	金額(千円)
(株)横浜銀行	91,000
(株)三菱東京UFJ銀行	80,000
(株)みずほ銀行	36,000
(株)りそな銀行	15,000
合計	222,000

ニ．1年内返済予定の長期借入金

相手先	金額(千円)
三浦藤沢信用金庫	30,580
(株)みずほ銀行	19,992
(株)横浜銀行	18,308
合計	68,880

ホ．前受金

相手先	金額(千円)
ユニアデックス(株)	39,083
(株)ミロク情報サービス	32,700
ネットワンシステムズ(株)	27,132
(株)日立電線ネットワークス	21,897
ソフトバンクテレコム(株)	18,608
その他	158,970
合計	298,392

固定負債

長期借入金

相手先	金額(千円)
三浦藤沢信用金庫	69,420
(株)横浜銀行	41,680
(株)みずほ銀行	23,364
合計	134,464

(3)【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎営業年度終了後3ヶ月以内
基準日	12月31日
剰余金の配当の基準日	6月30日、12月31日
1単元の株式数	-
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	- - - -
公告掲載方法	当会社の公告は、電子公告により行う。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL http://www.nvc.co.jp/
株主に対する特典	該当事項はありません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社には親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第22期）（自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日）平成24年3月29日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成24年3月29日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第23期第1四半期）（自 平成24年1月1日 至 平成24年3月31日）平成24年5月15日関東財務局長に提出

（第23期第2四半期）（自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日）平成24年8月14日関東財務局長に提出

（第23期第3四半期）（自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日）平成24年11月14日関東財務局長に提出

(4) 四半期報告書の訂正報告書及び確認書

平成25年2月20日関東財務局長に提出

（第23期第2四半期）（自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日）の四半期報告書に係る訂正報告書及びその確認書であります。

平成25年2月20日関東財務局長に提出

（第23期第3四半期）（自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日）の四半期報告書に係る訂正報告書及びその確認書であります。

(5) 臨時報告書

平成24年4月2日関東財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項および企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における決議事項）の規定に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成25年3月26日

株式会社 ネットワークバリューコンポネッツ

取締役会 御中

監査法人五大

指定社員
業務執行社員 公認会計士 高木 勇三 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 手塚 眞佐子 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ネットワークバリューコンポネッツの平成24年1月1日から平成24年12月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ネットワークバリューコンポネッツ及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ネットワークバリューコンポネンツの平成24年12月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社ネットワークバリューコンポネンツが平成24年12月31日現在の財務報告に係る内部統制は開示すべき重要な不備があるため有効でないと表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

内部統制報告書に記載されている開示すべき重要な不備のある決算・財務報告プロセスで特定した必要な修正は連結財務諸表に反映されており、これによる財務諸表監査に及ぼす影響はない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2. 連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成25年3月26日

株式会社 ネットワークバリューコンポネッツ

取締役会 御中

監査法人五大

指定社員
業務執行社員 公認会計士 高木 勇三 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 手塚 眞佐子 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ネットワークバリューコンポネッツの平成24年1月1日から平成24年12月31日までの第23期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ネットワークバリューコンポネッツの平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。